

文学博物館と古書籍

中 川 成 美

国際博物館会議 (ICOM・以下イコムと略称) は、ユネスコに置かれる博物館の国際文化交流機関であるが、その各専門別部会の一つに国際文学博物館会議 (International Committee for Literary Museum・ICLM) がある。これは一九七八年に第1回会議が東独・ワイマールで開催されたイコム二・番目の若くまた小さな分科会であるが、毎年文学系博物館、メモリアルの問題について、その可能性を活発に討議、検討してきた。

本年で一〇周年を迎える本会議の報告を通じて、文学博物館と古書籍の問題について考えてみたい。

書籍が何にもおいて「読む」ということを要求されているのは白明のことである。日本でも近年各地に建設される文学系博物館、メモリアルがその第一次資料を書籍に拠る点は、その特性と相反した事象と受けとられ勝ちである。ガラス・ケースの後ろに封じこめられた本は、保存という点では具合良くても、研究や楽しみの面ではいかにも歯がゆくもどかしい存在に思える。勿論、これまでも見る

ための書籍は数多くあった。しかし、私たち観客は、その装丁や挿絵の細部まで心ゆくまで手にとつて鑑賞したいと思うのが普通である。

また文学系博物館そのもののあり方についても、図書館が展示機能を備えれば、それでこと足りるようにも思え、十分に理解が至らない。ICLMもそうした混乱と模索から誕生した。

ヨーロッパにあつては、ハリ国立図書館、ベルギー王立図書館地下の書籍美術館などにみられるように図書館内でまず書籍展示の方法が試みられた。現代でも古い歴史を持つ図書館では、常設、臨時を問わず何らかの展示装置を備えている館が多い。

こうした潮流とは別に、東独ワイマールのシラーの家(一八四七〜)、国立ゲーテ博物館(一八八六一七〜)、パリ・ヴィクトル・ユゴー博物館(一九〇二〜)など文学者の生家や住居などが史跡保存のため、博物館となる例が一九世紀半ばごろから盛んになる。この背景には市民層が成熟し、知的な関心を文学に寄せていった証左とも

なる。が、内容としては、文学者の遺品保存や、同時代風俗の展示などに力が注がれていた。

二〇世紀に入り、第一次大戦を経た一九二〇年代前後、ヨーロッパの各地には、一九世紀世界を顕彰するかの如く、住居メモリアルが多く出現した。ノルウェーのイブセンの家博物館(一九六〜)、ロンドン・ディケンズハウス(一九二五〜)などはその好例であろう。また、一方において、ソ連では、モスコ・トルストイの家博物館(一九二〜)の設立を出発に、

より博物館として充実した機能を備えた文学総合博物館、モスコ文学博物館(一九三四〜)をオープンした。ロシア語による文学を新たな価値で問い直すべく、レーモントフ、チェホフ、ドストエフスキら一九世紀ロシア文学の展示資料を中心に構成されている。

しかし、第二次世界大戦の勃発は、こうした流れを完全に断ちきつた。特に東欧諸国にあつては、民族・言語すらも否定されていった経緯から、戦後いち早く復興プロジェクトに文学博物館建設が企図された。ハンガリー・ペーフィ文学博物館(一九五四〜)、ポーランド・ミツケヴィッチ文学博物館(一九五六〜)など民族独立にペンを執った作家たちの文学博物館がいち早くオープンしたのは、文学を通して民族、国家、あるいは文化を新たな認識のもとでとら

え直そうという志向の表明であろう。チエコスロヴァキア・プラハの民族文学資料館は一九五一年スター城内にチエコ古典文学の展示がおこなわれた後五三年に現在地のストラフホフ修道院に移された。九世紀のチエコ語成立期から現代まで、三〇室、展示壁二千メートル余りという総合文学博物館である。ロマネスク様式の典雅な館内にゆつたりと配置された展示を巡るうちに、文学、文化、言語の生成と成熟或いは挫折がたどれるようになっていく。



チエコ民族文学資料館内部

西側にあつては、西独・フランクフルトのゲーテ・ハウスのように戦災による瓦礫のなから市民が七年がかりでレンガを拾い集め再建したように、再整備がまず主眼となった。そうしたなかで、国立オランダ文学博物館(ハーグ・一九五四〜)は、一九二三年ウィルヘルミナ女王在位二五周年記念

のため開催されたハーグ市庁舎の文学展示を前身にして、文学研究家W・モルのコレクションを加え発足した。現在、文化省内に場所を得、一七五〇年以降のオランダ文学の歩みを、七千点余りの資料を用いて展覧している。ナチ政権下の抵抗文学のコーナーは写真、模型などを使って圧巻である。

この、九五〇年代のヨーロッパにおける、文学博物館活動は、第二次大戦という未曾有の体験を通じて初めて登場したものであり、以後の文学系博物館の充実に大きく影響を及ぼしている。書籍の稀少性ゆえに展示して見せるという、また一人の文学者の事績を顕彰するため遺愛品を並べるという方向は、この期に再検討を迫られたのである。このための混乱は、やがてICLMを生んでいくことになる。

文学博物館の語義定義は非常に難しい。日本では文庫という出で方があるが、これも図書館や研究所におかれている場合はどう解釈するか、あるいは文書館(アーカイヴ)との差異をどう測定するかなど、容易に決しにくい。一九八二年、インドのカルカッタとサンティニケタンで開催された第一回アジア文学系博物館会議では、ガーンジー記念館、ネタジ(チャンドラ・ボース)記念館などもこれに繰り入れてメンバーとしていた。

が、東独・ワイマールのゲーテ博物館は、別にゲーテ文書館^{ゲテ・シュテット}を設けて運営している。

この問題についてソ連・モスコイ文学博物館長N・シヤクハローヴァ氏は「文学博物館は図書館や文書館の精神は固守するものの、その模倣に甘んじることとは何の意味を持たないし、また文学博物館はただ作家の遺愛品を保存するだけ^{（ICLM Information II 1979）}と^{（ICLM Information II 1979）}とその境界について見解を述べている。

書籍を主たる第一次資料とする以上、図書館的機能を果たさねばならないし、研究にとって草稿や手稿類はどんな断簡零墨に至るまで文書館と同様に保存、解明していかなければなるまい。が、反面文学が人間の様々なる営為^{（ICLM Information II 1979）}と思考の結晶を表現していくという要請にあつては、広範な文化の体系を具体的に肉付けていかねばならぬ。周辺^{（ICLM Information II 1979）}の思想や風俗までも考慮にいれない限り、文学は見えてこない。特に一九七〇年代以降のマス・メディアの肥大化は、文学の概念そのものを変革しかねない様相を帯びている。大量な情報を、多様なメディアから選択しなければならぬ情報化社会にあつて、博物館はその中心に位置する重要な担い手として新しい飛躍を要求されたのである。

一九七七年、レーニンградでの第一回イコム総会で、イコム

諮問委員会が文学系博物館の部会を発足させるべく八ヶ国一六人の会員に呼びかけたのも、こうした博物館の多様化への試みであつたと思える。翌年ワイマールで「文学系博物館の可能性と限界―経験・認識・研究課題―」のテーマで第一回の会議がもたれて以来、理論的な方法論を暗中模索しつつ、メンバーが自からの経験や研究を相互に交換し合つてきた。イコムがそも／＼政治的立場によらない全くの個人の資格でしか参加できない点^{（ICLM Information II 1979）}が、この会議を積極的なものにした。文学博物館関係者のみならず、文学研究者、図書館員、演劇博物館員など、この課題に興味を持つあらゆる人々に開かれていた点は、この一〇年間の研究成果を裏ついている。



国立オランダ文学博物館展示

私は第五回のバリーで開催された会議から参加をしたが（一九八二）以下「会議紀要」などを援用しな

がら簡単にその内容を報告したい。第五回は「作家、街、そして文学博物館」というテーマであつたが、そこでは文学系博物館の多くを占める生家や住居メモリアルや個人文学博物館が、なぜその地に置かれていたのかを考察し、作家と作品の解明にどう有機的に関わつていくかという問題が話し合われた。そのために第二回デュッセルドルフの会議で話された「文学系博物館におけるオリジナルと複製」で既に出ていた第一次資料の保存と保護の問題と同様、ある作家なり作品なりに深く関わる環境をいかに保つていくかという点にまで話題が及んだ。

貴重な稀覯本や草稿、絵画、写真などを万全の体制で発掘保存修復するのは勿論だが、一方において積極的にオリジナルを増やしていく、即ち極めて質の高い複製を残していく作業の重要性が、この二回で確認されている。厳密な複製のためには、最高度に保たれたオリジナルが必要である。美本、善本というとか何か好事家的なニュアンスを帯びるが、完全な形での複製はこれを無くして有りえない。既に日本では日本近代文学館を中心に、非常に質の高い複製がつくられており、私もよく理解はたらいいたのを覚えてる。また保存技術についても、参加していた各国の現状より日本が大分先をいっている観があつた。

しかし、形の無いものの保存、文学的環境や自然保護の面については立ち遅れを思い知らされた。例えばディケンズにおけるロンドンを考えたいく上、学芸員がフイルド・ワークを踏まえた上での地誌的アプローチが必要であるというディケンズハウス・D・パーカー博士の報告は説得力のあるものの、明治はおろか、一〇年前を忍ぶことも難しくなっている東京などにあつてその作業はかなり大変である。馬籠の藤村記念郷などは、「夜明け前」の世界を再構築していくための歴史的環境保全に成功しているが、こうした二、三の例外を除いて現代の日本が、見えない文学の世界をますます見えにくくしているのは事実であらう。

第七回、ブタペストでの「文学博物館の資料分類・整理とその課題」では国際的な分類規程の可能性が話しあわれた。書籍が見るだけの存在で無いことは先に述べたが、その内容が直接展示に反映する文学系博物館にあつては単なる図書分類に留まらず、むしろ観客に読ませない分だけその本が持つ世界を細かく分類カードに移し変えねばならない。挿絵、装丁、出版事項は言うに及ばずその本そのものが持つ特性や、関連資料のリストに至るまで一枚のカードに表記できたら、どんなに展示の役に立つだろう。コンピュータ・

システムの導入、研究機関との協力、データ・システムの開発等がこれを助けるだろう。またこの前年から構想されているIFLAとの共同ワーキング・グループの試案が披露された。

一九八七年の第一回会議は、西独・ボルフェンビュッテルにて開催されたが、「貴重書・稀覯本の重要性」で東独のD・エッカル博士が示された一冊の汚損した粗末な古本には感銘を受けた。博士は戦時下若き兵士が戦場まで伴つたその本に刻印された黒い血のしみを示しながら、稀少性や価格のみがその本の価値を決定するのではないことを力説された。要はその本を手にする人間が、それをどう自己の魂に関わらせ内容を読みとっていくかということにかかつていよう。

善本を徹底的に探究すること、血に汚れた古本に真摯な眼を向けることは、実はいつもパラレルに対応している。文学博物館は、その意識のあり様を最大限にかつ効率的に喚起する装置と、私は思っている。

(3)

ICLMの一〇年の成果に二冊の「会議紀要」、「国際文学博物館リスト（ハンド・ブック）第一、二集」などがあるが、それらで報告、討議されている問題は、日本でも同様に検討されてきた。ある面では、日本がリードしている観もあ

る。しかしながら文学博物館に對する一般の関心はまだ高いとは言にくい。現在ヨーロッパ主導型で進んでいる文学博物館の展開も、私は日本を含むアジアやアフリカ、また南アメリカなどの眼を導入しない限りメソッドの創出には道が遠いと思っている。大

近世文書の独習法

宮垣 克己

初心者が、近世文書の読解力を身につけるには、どのようにすればよいのか。できるだけ能率良く学べる方法や心構えなどを語ってもらいたい。

本誌の編集長さんから、こんな依頼を受けたのは、旧冬もあと三日で大晦日という日の夕刻であった。しかも、あまり武張らずに、正月気分を手軽に進めてほしい、との注文付きである。

このような事柄に対しては、私のほかに適任者も多かろうと思っ

げさにいえばそれは世界観を読みとる方法なのである。

それにつけても、日本語の発生から現代文字までを見通す文学博物館の誕生が待望されてならない。国際化時代と世間は言うが、相対さるべき文化の確たる拠り所と現実の証拠が無くしては虚しい響き

ようと思う。

独りで学ぶという情、やはり何事につけても先達はあらまほしきものである。できることなら是非一度、「古文書講習会」か「古文書講座」の類に参加してみたい。幸い京都では毎月、どこかで講習会が講座が催されている。出席者はテキストをもとに、何人かの専門の講師の指導によって、古文書の何たるかを学び、解説の手ほどきを受け、古文書の取り扱い方の基本を身につける仕組みになっている。

とはいっても、誰でも講座や講習会に参加できるとは限らない。手元に古文書は無し、講習会のテキストも無いし、文書の写真も無い。それでも何とか勉強したい。さて、どうすればよいか。

しかたでまい。現代が見えにくいからこそ、冊の古書籍を手がかりに文字を考え、文学博物館の未来を見出していかれたらと願っている。

〔記〕本文は拙稿「アジアの文学博物館とその課題」(『NO.25』、一九九〇年)、「世界の文学博物館—その現在と未来—」

それには、やはり市販の「本」を求めていただくのが手近である。私ごとで恐れ入るが、十数年来あるサークルで近世文書の解説指導を続けている。その間に使用した市販本をかがけてみると、次の如くである。

- (1) 立教大学日本史研究室編「近世文書演習・増訂版」(柏書房70)
- (2) 立教大学日本史研究室編「近代文書演習」(柏書房70)
- (3) 日本歴史学会編「演習古文書選」(近世編正統)(吉川弘文館71)
- (4) 林英夫・田畑勉編「近世文書の解説」(柏書房78)
- (5) 日本歴史学会編「演習古文書選」(近代編上下)(吉川弘文館78)

お気づきのよう、なぜか近年この手の本が市販されていないので、以外に入手するのが困難かも知れないが、影印本に読み本を付し、簡単な史料解説が添えられているから、文字どおり古文書学習の手引きである。

ついでに、書架に並んでいる関連本を並べてみると

「博物館研究」(一巻、二号)を要約、一部補筆したもので、本文中の引用文献、外国語訳の文意は全て筆者により、大方の訂正、訂正を切に希望してあります。

〔元神奈川近代文学館員、現同志社女子大学専任講師、日本近代文学専門〕

その解説と利用法——(小宮山書房69)

(7) 藤本篤著「古文書への招待」(柏書房79)

(8) 秋山高志・川村俊編「古文書に歴史を読む」(柏書房81)

(9) 北島正元監修、樋口政則著「実例古文書判読入門」(名著出版82)

先のグループの本が、講義用テキストとして編集されたものらしく、影印部分が大きいのに対して、後のグループの本は小型であり、文書の写真部分は小さいが、所謂独習用を意識してか、文字解説や状況説明などは格段に、厚味を増している。

解説の練習をするのに、これらの本がないと出来ないというのではないが、正しく読めたかどうかの判定を得るためには、やはり読み本・解説付きの入門書が便利である。

どの本でもよい、何か一冊、本が手に入ったとしよう。最初は満足のいくまで自由に通読されるとよい。解説を拾い読みされるのも

よからうし、変体がなの、覽表に合点しながらうなづかれるのもよいであろう。拾い読みが、段落したとしよう。

いよいよ「独り学習」のはじまりである。

まず、原稿用紙と鉛筆を用意していただく。次に、どの文章でもよいから、読んでみたいと思う写真版(影印本)を選ぶ。勿論、この時には解説文や読本はふせておく。推察のとおり、原稿用紙の罫目に、古文書にあるおりの字を読み取って行くのである。

いくら好きな文章を選んでよい、とはいえないものの、のっけから書状や訴状の類を目にすれば、大抵の方がほとんど手につかないと思う。私の経験からすれば、江戸中期以降に認められた「田畑亮渡し証文」や、「奉公人請状」など、比較的楷書に近い感じのものがよいようである。ちなみに私が最初に読み取った文書が、文化六年(一八〇九)の「借家請状」である。

原稿用紙に読み取る場合の約束がある。罫目に、一字一字正確に書き入れることである。読めない場合はその字数だけ罫目を空けて、次に進む。俗に言う「みずのはっし」や「なす」が、何文字であるのか、漢字か仮名かを見分けるのである。改行は、文書にあるとおりに真似るべきである。罫目に文字を書き入れるうちに、

古文書の文面自体に、一字分空白があったり、行の下方が空白である。例え「以」御慈悲の如くである。これは専門用語で「闕字」といい、敬意を表わす意味をもっている。「以」の下を余白にし「御慈悲」を改行して記せば「平出」といって、一層強い敬意を表わすことになる。更に上位は「抬頭」という書式があるが、この例は一般には少ない。

柁目の記入のことから横道へそれてしまったが、まず頑張って一通り読み取ったとしよう。勿論、初めての時は、各行ごとに空き柁目が連なっていることとおもう。いわゆる虫喰い状態の読み本である。

次に読めなかった文字の手当であるが、ここで直ぐに解説文に目を移しては駄目である。自分の力で読み取る努力をしなければ効果は上らない。

ご年輩の方なれば、この字はどうやら糸偏の字らしいぞとか、どうやら旁は分らしいなどと推量していくこともできよう。自慢じやないが、漢字の偏や旁はおろか、構も冠も何もわからんという方々もひよつとして初心者の中には混じつておられるかも知れない。実は、理屈抜き、書いてあるままの姿から、文字を読み取る手はずをするのうつつつけの本が普及している。

児玉幸多編「くずし字解説辞典」(近藤出版社70)がそれである。

「く」で始まる字、「く」から入って縦棒に続く字などという具合に、見たままの形で照合できる工夫がしてある。慣れると誠に便利な本である。

とはいっても、何でもこれ一冊で読み取れる筈はない。

やはり最後は国語辞典と首引きとならざるを得ない。古文書の解説には、どうしても漢和辞典が必要である。読めないことには仕方がないし、次には意味が通じなければならぬ。

ここでまた、関連する文献をあげてみる。

児玉幸多編「漢字くずし方辞典」(近藤出版社82)

横山篤美著「古文書難語辞典」(柏書房81)

荒居英次ほか編「古文書用語辞典」(柏書房83)

中田易直ほか編「かな解説辞典」(柏書房)

このほか「異体字解説辞典」や「くずし字用例辞典」など、類本が何種類か出版されている。

ところで、古文書を読み取る際の筆記具であるが、必ず鉛筆を用いてほしい。シャープペンシルはよいとしても、断じて万年筆やボールペンでの筆記はつしんでもらいたいのと思う。写真ならかまわないだろうとか、これはコピーだからいいだろうと思ううちに、本

物の古文書でも、平気でくわえ煙草、フェルトペン片手に取り扱う習癖が身につくことを恐れるのである。

もうざい分以前の話しであるが、ある初老の方が一通の文書を手にして訪ねてこられた。自分の家にある文書を読みたいと思い、我流で読んでみたから添削してほしい、といわれるのである。田畑の亮渡し証文だったと思うが、何と原文書に赤いボールペンで、読み本が書き込まれているのではない。

添削どころではない。これは大変だ。何でも、似かよったものが沢山あるから、少し位よいだろうと考えて、他にも何通かこの様に書き込みをしている、とおつしやるのを、解説のことはそつちのけで、どうか古文書を大切に取扱い下さい。一点一点が、かけがえない文化財なんですからとお願ひした気遣いがある。心したいものである。

原文書の扱い方にふれたついでに、もう少し雑感を申し述べておきたい。面倒なようでも、紙物は一通一通もとの状態に巻き戻して保管するように心懸けてほしい。既に広げて綴じ込んでもあるものは仕方がないが、現在残されている状態(姿)を大切にしておいてほしい。また、一括にしてあったり、一つの袋に入れて、他の文書と区別してある場合には、それぞれのまとまりに、その文書が作成され、

伝えられて来た経過を探る上で、非常に大切な要件が秘められている場合がある。なるべく伝存の形を崩さないでおいではほしいものである。

それにしても残念に思うのは、折角あるまとまりを持って伝えられていたであろう近世文書が、一部の例とはいえ、完全に一通一通の文書にばらしてしまい、古書目録に登場する姿に接することである。名家の書状のように、その一通が軸物として装飾され、美術品として珍重される例もあるから、一通一通にばら売りして悪いという法は無いのかも知れない。しかし地方文書は、関連文書が集合してこそ、その史料効力を発揮することになるのである。

近世文書解説の手引きをお話しするはずが、またまた脇道へそれてしまった。本論にもどそう。

原稿用紙の柁目に読み取ることに、読めなかった文字を調べるための文献を紹介した。できるだけ自分の力で読み取った、ここからはじめて備えつけの読本が解説文で、正誤を確かめながら反復するとよい。

同じ作業のくり返しを、あと何通かの文書で試みられるとよい。十通目位になると、自分で驚くほど、自信がついてくる筈である。

もうすっかりマスターしたと思つたら、しばらくその文書から遠去かる。忘れた頃にもう一度取り

出してみて、最初の時と同じように、自分の知識だけで原稿用紙の柁目に読み本を作成してみる。一発で完成したら先ず成功である。他の文書についても同様である。完全に読み取る力がつくまで、何度もアタックされるとよい。

習うためには、同じ動作の繰り返しが最も基本となることは、古文書解説についても同様であるというわけである。

ところで、私は初心者の方に手ほどきする際に、用語に関する二つのお話しをする。

一つは「候」についてである。候と声を出して読んだだけで、一かど文書に精通したかのような錯覚が起きるほど、重要な語である。「候」は「候」「俣」「𠂔」「𠂔」とくずれていき、やがて「𠂔」のように、たつた一つのちゃんぽで代用されてしまう。「ハ」「ハ」は候ハバ」と読むのですよ、というわけである。

次に、近世には俗字・略字・異体字の類が多いから、例えば「松」の字は「𠂔」「𠂔」「𠂔」に化けることがある。「トキ」や「トモ」を

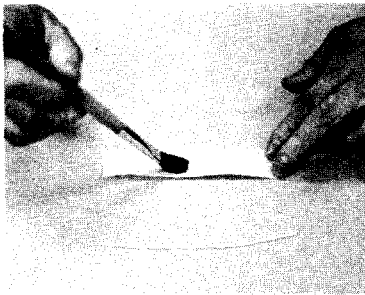
「𠂔」「𠂔」などと書く合字もある。また読み方も現在とは多少異なり「出来」は「しゅつたい」と読む。これらの例をいくつか示して、さあ少しは古文書の通になれましたね、と語りかけるわけである。

(以下次ページ五段目につづく)

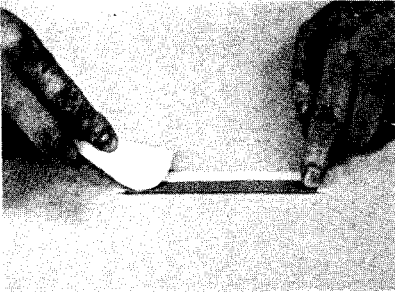
書物の修理 第四回

「書祭」 世儀義夫

今回はヘッドバンドの作り方と本の表紙に使う布の裏打ち方法を書いてみます。ヘッドバンド（ヘドバン）とは上製本の背固めした天と地に貼りつけるもので、本棚から本を引き出す際、背表紙の上部の破損を防ぐものです。本来は皮紐やこよりに二色から三色の絹糸を使って編み上げるものでしたが現在ではこよりに裏打ちした布や紙を巻きつけて接着材で貼りつけるだけになっています。



ヘドバン製作 工程②



ヘドバン製作 工程③

ヘッドバンドの製作

① 芯に使う水引きを約12センチと裏打ちした布、又は厚手の和紙を幅15ミリ、長さ10センチを用意します。

② 布や紙の裏側全面にヒメのりを平筆で塗ります。

③ 布の上部から5ミリの位置へ水引きを置き布を内側へ折り曲げ、ヘラを使って水引きの丸みがキチンと出るようにします。

ヘドバン作り終り

布の裏打ち

道具Ⅱハサミ・竹定規二本・カッターナイフ・霧吹き・ベニヤ板（60センチ四方、厚さ4ミリ以上）刷毛二本・のり皿・ピンセット

材料 布（木綿100%が最適）・裏打ち用和紙・ヒメのり・水

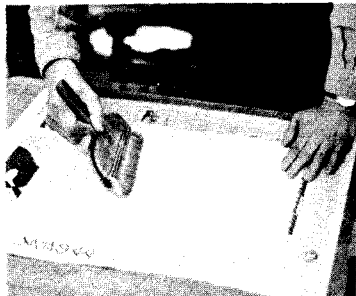
① 和紙を布よりも周囲約3センチ程大きく切り取ります。

② ベニヤ板（よく洗っておく）に布の裏側を上にして板の中央に置き霧吹きで水を吹きつけます。

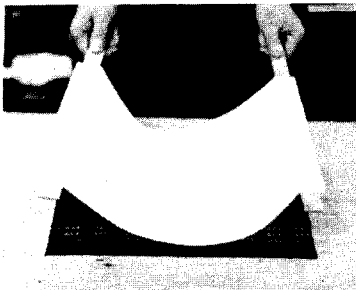
③ なで刷毛で布を静かになでつけベニヤ板と布を密着させます。

糸くず等はピンセットで取り除きます。

④ 和紙にのりをムラなく塗り広げます。

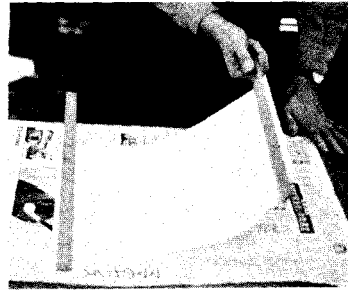


布の裏打ち 工程④



布の裏打ち 工程⑥

⑤ 和紙の両端に竹定規を置き、腕を交差させてのりを塗った面が下になるように和紙を持ち上げます。



布の裏打ち 工程⑤

⑥ 布の上に和紙を静かに置き、なで刷毛で和紙の上をなでつけ空気をシワを取ります。

（前ページよりつづく）

はじめて古文書を手にして以来、三〇年ほどの間に、何千点かの古文書に接してきたし、時には講師の役目も努めてきた。何十人、何百人の人々の手を眺め、苦悶してきた。しかし未だに古文書はむづかしいとの思いが心をよぶ。奥が深い。深いからこそ魅力が増す。

正月気分で、いささか浮かれた作文となったが、多少なりと入門の手引きとしての役割りが果たれば幸いである。

筆者紹介

現在（財）京都文化財団に勤務し、今秋開催される「京都文化博物館（仮称）」の準備を担当、元京都府立総合資料館の専門委員として近世文書を中心に歴史資料全般の取り扱いに従事。「史料で見る城陽の近世」を監修、共著に京都大事典（淡交社）、京都府地名大辞典（平凡社）、日本地名大事典・京都編（角川書店）、明治大正図法・京都編（筑摩）、史蹟解題事典・近世編（東京堂）

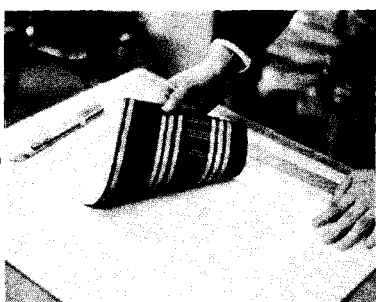
⑦ たき刷毛で和紙の上をたき、和紙と布を密着させます。

⑧ 24時間冷暗所に立てかけて自然乾燥させます。

⑨ カッターナイフで布に切れ目を入れ布をベニヤ板からはがし取ります。



布の裏打 工程⑦



布の裏打 工程⑧

これで裏打ちは終わりました。このようにすると着物のハギレ、ヌクタイ、ハンケチ、風呂敷等で表紙を作ることができます。

参考文献

●図書保管法 毀損・亡失篇

林靖一著 風間書房 昭25年
本書の製本そのものが図書館用の丈夫な作りになっている。

●江戸仕掛本考 林美一著 昭47年
有光書房

江戸時代に出版された仕掛本の解説とリスト。口絵に仕掛絵を再現している。

●ウィンドで作る自分の本

田中直道著 造本指導 岩崎博
ビジネス・アスキー 昭62年

●裏打のすすめ 藪田夏秋著 昭57年
日貿出版社

●JAPANESE BOOKBINDINGS

一九八六年

Kojiro Ikegami

WEATHERHILL社

卷子本、折本、和綴本、秩などの制作工程をイラストと写真でくわしく紹介した技法書(英文)

ISBN 0-838-0196-5

●ある書誌学者の犯罪 昭58年
高橋俊哉著 河出書房新社

英国書誌学会のナポレオンと呼ばれたT・J・ワイズ(一八五

九—一九三七)がシェリーやアラウニング夫人の偽造本を作り

世界中のコレクターや図書館に売りつけていた事実を暴露した

評伝。又ワイズは英国書誌学会の稀覯本からタイトルページを切り取り、自己のアシユール文庫

に加えていた。

●愛書趣味 昭59年
ミシエル・ヴォケール著

白水社文庫クセジュ662

美しさと珍らしさと内容のすばらしい書物をコレクションするための案内書。小説の初版本や

画家の挿絵本以外に、旅行記、建築、美食、医学等、少し翻訳

におかしな点があるのを除けば読んで面白い本。(旅行記のリス

ストに「金星旅行」(天文観測儀の旅)(愛妾の旅)などが登場す

る)いずれも船名を直訳したものらしい。本書の初版本には製

本のミスで中身が抜け落ちる本があるから買う時には書店でチ

ェックすること。

そのほかに書物が登場する小説を探してみると、

●瀟湘龍彦集成VI 桃源社 昭45年
(さかしま)に、パリ郊外の屋敷に閉じこもったデ・ゼツサン

トが特別に製本させたマラルメやリラダンの詩集についての詳細な描写がある。

●カサマシマ公爵夫人 昭56年
H・ジェイムズ著

集英社版世界名作文学全集57
19世紀ロンドンの有能な製本工

と革命運動とのかかわりを描いた長篇小説であるが、本づくり

について少しも書かれていない。

●シルヴェストル・ボナールの罪 A・フランス著 白水社 昭15年
古書目録に掲載された(黄金傳)

の写本を求めてシチリア島への旅と、思いもかけぬ贈り物を受

けとることになったS・ボナールの半生。

●フォーチュン氏の事件簿

H・C・ペイリー著 昭52年
創元推理文庫178

素人探偵フォーチュン氏の短篇集。収録の「羊皮紙の穴」は羊

皮紙に筆写された福音書の真贋をめぐる傑作。

●古書殺人事件 マルコ・ベイジ
ハヤカワミステリ113 昭30年

アメリカの古書業界の内幕と図書館から本を盗み、改装してヨーロッパのコレクターに売りつ

けるグループに立ち向う本の探偵ジェエル・グラスの活躍……

と裏表紙に広告してあるがそれほど面白くもないし、製本の記

述もほとんどない。

●殺人詩篇 ウイル・ハリス著
ハヤカワミステリ文庫420 昭60年

17世紀アメリカの植民地時代に印刷された(ペイ版詩篇)と老

「総合古書在庫目録・第六号」

申し込み受付

来る五月一日より五日間古書研究会主催で岡崎公園内の京都市勤

業館(二階全フロア)にて「第四回春の古本まつり」を開催。

併せて「総合古書在庫目録」の第六号が四月中旬頃発行される。B

5判150頁以上、写真版多数の豪華

図書館員の死。ベトナム戦争婦りの英文学教授クリフ・ダンバーが紙と活字と印刷のカラクリを見破るまで。

●久生十蘭全集Ⅲ

三二書房

昭45年

最初に収録された中篇小説「だいこん」に、——雲母のように光る白銀色の押車を表紙にして、四つ隅と背に海緑色のモロッコ皮をつけたぞつとするような美しい装釘の書置——を読むシーンがある。

「書物の修理」 終

一年間四回にかけて「書物の修理」を掲載いたしました。これで終了です。毎回見開頁にしておりますのでコピーにとつて四回分をまとめて保存していただければ便利かと思えます。さらに高等な製本や修理の講習や依頼もご気軽に「書祭」にお問い合わせ下さい。

目録。販売価格は五〇〇円(別に送料二五〇円)であるが、本誌の定期購読者で左記メ切までにお申し込みいただいた方には無料でお送りします。ハガキに送り先を記入してお申し込み下さい。

●申し込みメ切

昭和六十三年三月三十一日

●申し込み先 岡崎市京都市東洞院通六角上ル 京都古書組合内古書研究会「目録」係

古書研だより

初めて青空の見えなかった

青空、古本市(第十一回)

文化の日の十一月三日はめったに雨の降らない気象特異日といわれる。当古書研主催のおなじみ秋の古本まつりー青空古本市は第一回からどの年もその名の通りまつ

青な空の下で開催されてきた。ところが百万辺知恩寺で古本まつりが催されて十年目という今回は十月三十一日から十一月三日までの会期中ついに一度も青空が見えない「青空古本市」となった。

悪天候は会期前日の搬入の日から始まった。小雨が降ったり止んだりの中で「今のうちに降っておいてくれたら会期中は青空だ」と誰もが信じていた。

初日はどんよりと曇り、昨日の雨がまだ残っているのかと思いつつ開幕。今年の呼びびもの「ギネスに挑戦・百円均一本の列」も予想通りすごい人気。山門から本堂までの参道に約八十m一直線に並んだ百円均一本、こんな長い均一本の売り場は世界でもここだけ。

新聞・テレビがこの面白い企画をニュースに流したので午後からはドーツと人出が増える。古本村の会員店はこれに負けじとテントの

外にも文庫コーナー、推理小説コーナーなどを設けて人集めに工夫をこらす。

二日目、日曜日と報道のお陰で入出は順調、しかし空の方は今にも泣きだしそう。午後のチャリティーオークションではポツリポツリと雨が降りだし早目に切り上げ、長い百円均一本には透明ビニールがかけられた。

三日目、ついに朝から雨。遠くからの問合せの電話に無責任な解答も出ず閉店と決定。皮肉なことに午後からは雨が止む。明日は絶対雨の降らない文化の日だからと最後の望みを明日に託す。

さて最終日、頭の上に雨がぶら下がっているような朝。人出はいくぶん少な目、それに傘を手にして

いる人が目立つのは不吉な予感がする。それでも人札セールの開札、第一回目のチャリティーオークション、本の修理講座も順調に消化し、最後の追いこみという時になった

午後三時頃、ついに雨。そのまま閉店時間まで降りつづけ湿った幕切れとなった。毎年青空の下でいつかこんな年が来るだろうと思っ

てはいたが、十年目についてにやられたとはまことに記念すべき古本まつりであった。



古書研究会誕生の年に始まった秋の古本まつりは今年で十周年を迎えた。一つの節目でもあるので去る十二月二十六日左京区のホテルで盛大に祝賀会を催した。十年間心よく会場を提供していただいた百万遍知恩寺の方、様々な講座を担当して下さった先生方、印刷、運搬、会場の設営などの関係や業界関係の方々をお招きし、また会員は子供同伴の一家総出という賑

ギブリーシルヴァン開設

昭和五十一年辰年の二月の開業のシルヴァン書房が今年の辰年で丁度丁支を巡したのを機にかねて念願の多目的アトスヘースを同店二階にオープンする。面積は約十五坪、壁面は淡いベージュ色にして、照明も明るく工夫されている。

第一回の企画としては2月5日(金)より2月16日(火)の期間で新取の版画・ポスターの展示即売会を予定している。ロートモレアン(ル

やかな会となった。

知恩寺の亀岡清栄師と赤尾清昭京都古書組合理事長より祝辞をいただいたが、知恩寺の亀岡師はその中で「今やこの寺は古本まつりの知恩寺と言われるようになった」と同の積み重ねを強調された。

また同寺塔頭の伊藤裕昭氏は百万遍と古本屋との江戸時代からの因縁話を披露され、今後の永い



古本まつり十周年記念パーティーで挨拶する中村俊一代表

ドマルドローの歌」を主題に描かれたハンス・ベルメールの銅版画11点を始めアールヌーボー、アールデコ期のポスターや版画、同時代の服飾誌で活躍したG・パルビエ、ルバフ、マティエ、等の画家のポシウォール色刷のファッショフレイトを中心に種々の版画を約七〇点、展示即売する。

第二回以降の企画は未定であるが顧客のニーズに合った、又楽しんでもらえるスペースとして活用して行きたいとの考えである。

お問合せ シルヴァン書房
☎〇七五―三三四―一八七九

おつきあいを望まれた。

食事とクイズやゲームで楽しい一時を過ごしたが、来年からは新機一転した古本まつりを創り上げることが誓って閉会となった。

― 編集後記 ―

◎新年早々大変な遅刻。掲載記事に急な変更があり、中川成美、宮垣克己両先生には正月のトノもソコソコに無理に執筆をいただいた。

◎関西復権が叫ばれ、京阪奈丘陵には大きな学園都市のプロジェクトがいよいよ動き出す。この大文化の拠点に古書業界はどのように関与してゆくかが大きな課題。

次号予定

「京古本や往来」第四十号は六十二年四月十五日予定です。

〒600 京都市下京区七条通堀川角

電話(〇七五) 三六一七六九五
振替 京都 一一一七九

1	甲骨文字研究	伊藤浩治	全3冊	昭和55	六〇,〇〇〇
2	漢以前の古鏡の研究	梅原末治		昭和59	四〇,〇〇〇
3	殷墟出土白色土器の研究	梅原末治		昭和59	一七,〇〇〇
4	戦国式銅器の研究	梅原末治		昭和59	七,〇〇〇
5	古銅器形態の考古学的研究	梅原末治		昭和59	二九,〇〇〇
6	枝葉の考古学的考察	梅原末治		昭和59	四〇,〇〇〇
7	増補 東西交渉の考古学	岡崎 敬		昭和55	九〇,〇〇〇
8	東洋歴史大辞典	池内他	縮刷版全3冊	昭和61	四〇〇,〇〇〇
9	東洋歴史大辞典	池内他	全3冊	昭和61	四〇〇,〇〇〇
10	東洋歴史大辞典 復刻版	京大東洋史研究会	全3冊	昭和61	四〇〇,〇〇〇
11	中国歴史地理研究	日比野丈夫		昭和52	一五〇,〇〇〇
12	唐宋時代の交通と地誌地図の研究・青山定雄	比野丈夫		昭和44	三三,〇〇〇
13	中国社会経済史の研究	曾我部静雄		昭和51	一〇,〇〇〇
14	宋代政経史の研究	曾我部静雄		昭和49	三三,〇〇〇
15	中国経済史の研究	西村元佑		昭和52	二八,〇〇〇
16	清朝前史の研究	三田村泰助		昭和47	三,〇〇〇
17	北アジア史研究	内田吟風	全2冊	昭和50	二五,〇〇〇
18	古代チベットの史研究	佐藤 長	全2冊	昭和52	二六,〇〇〇
19	中世チベットの史研究	佐藤 長		昭和61	一八,〇〇〇
20	中国哲学史の展望と模索	本村英一 博士 追記 記念		昭和51	一七,〇〇〇
21	支那歴代風俗事物考	尚秉和・秋田成明訳		昭和18	一七,〇〇〇
22	中国科学技術史の研究	荻内清編	京大人文研	昭和38	六〇,〇〇〇
23	中国の科学と科学者	山田慶児編		昭和53	五五,〇〇〇
24	中国宗教史研究	宮川尚志		昭和58	二二,〇〇〇
25	道教研究論集	吉岡博士還暦記念		昭和52	五五,〇〇〇
26	支那仏教史蹟踏査記	常盤大定		昭和47	二六,〇〇〇
27	中国の仏教美術	水野精一		昭和43	一七,〇〇〇
28	唐代仏教史論	滋野井情		昭和43	三〇,〇〇〇
29	涅槃宗史研究	牧田諦栄編著		昭和46	四六,〇〇〇
30	涅槃宗の研究	布施浩岳		昭和48	二〇,〇〇〇
31	支那中世仏教の展開	山崎 宏		昭和46	二五,〇〇〇
32	随唐仏教史の研究	山崎 宏		昭和55	七五,〇〇〇
33	大唐西域求法高僧伝	足立喜六訳註		昭和59	五〇,〇〇〇

〒602
京都市上京区烏丸通り上御霊前下ル
上御霊前町四一二

電話（〇七五）四三二一三七二
振替 京都 八十一四三六

★アテネ文庫特集

寸心日記
西田幾多郎

昭23-100

河上博士のこと（寿岳・ケール先生（和辻）・ベルチ
ヤエフ（宮崎）・ワイヒテ妻への手紙（相原）・幸徳秋水
東京の木賃宿（中島）・タバコ文化史（加茂）・きりり
たん大名ラウレス・ハ・一五事件（下村）・上海三十年
（小竹）・中国共産党（小島）・ソヴェトのちから（前芝
・モスクワ（丸山）

各冊五〇〇円均一

茶の精神わが父西田幾多郎・花と死と運命・実存哲学
科学以前・歩いてきた道・野の白合空の鳥・青年に与ふ
マクダレーナ・歩学の階級性・寺田寅彦・ヘラクレイトス
の言葉・科学と宗教・法隆寺・キリスト教と近代文化・
友人近衛・宗教者の生活・一寸法師・愛は多くの罪を擁
ふ・日本の財閥・続日本の財閥・知られざるゲーテ・実
存と虚無と退廃・赤い実と青い実・中江兆民・英国労働
党・ミレエ・弁証法入門・ジョーベンハウエルの対話・
封建文化と近代文化・ロシアの科学者・物質とは何か・
神を探ねて・スピノザの生涯・新聞・キェルケゴールの
日記・原子科学の人々・哲学入門・生命とは何か・クロ
ポトキン・今日の政党・孫文より毛沢東へ・安定恐慌・
ニーチエ・フランス文学入門・死刑論・レーニンからス
タリンへ・自然弁証法入門・社会科学への道・人間の間
の探索・共產党をめぐる人々・レイテ沖海戦・芸術とは何
か・唯物論入門・地球は動く・米ソは戦うか・自由の体
系・現代の良心・犯罪の科学・社会思想史・愛の詩集・
音楽入門・自然科学史・小説入門・憲法を守る力・論理
学入門・東文化の交流・イギリス憲政史・実存（線引
有）・日本文学辞典・中国文学辞典・文芸用語辞典・世
界史年表・新約聖書辞典・哲学用語辞典・心理学辞典・
法律学辞典・社会科学用語辞典・科学人名辞典・科学用
語辞典・物理学辞典・地学辞典

〒606 京都市左京区今出川通百万遍東入
(京都大学前)

電話(〇七五)七八一―二三三
振替 京都 七―二三四九七

1	明治文明史	小林鶯里	文陽堂	大4	二、〇〇〇
2	帝國暦日 歴史大鑑	東京国民書房	大5	二、五〇〇	
3	漫চিত্র裏面史	伊藤仁太郎	昭7	二、八〇〇	
4	明治治政顔見録	池田さぶろ	昭5	二、八〇〇	
5	高輪御殿進話録上下	小川直子女史述	昭16	三、〇〇〇	
6	朝陽門外 清水安三	朝日新聞	昭14	二、〇〇〇	
7	随筆議員宿舎 辻 寛一	新小説社	昭25	一、二〇〇	
8	大阪城物語	牧村史陽	昭34	一、〇〇〇	
9	海軍	岩田豊雄	昭18	一、二〇〇	
10	ブリズム	下村海南 印有	昭10	一、五〇〇	
11	酔うて候	西崎 緑	昭31	一、二〇〇	
12	僕の東京地図	サトウハチロー	昭11	一、〇〇〇	
13	戀愛二十年	川口松太郎	昭11	一、八〇〇	
14	准神の礎		昭17	一、〇〇〇	
15	驚異と神秘の生物界	松村松年	昭4	一、二〇〇	
16	明治功臣録 後編	朝比奈知泉	昭14	一、〇〇〇	
17	アサヒカメラ 2月号		昭10	一、〇〇〇	
18	アサヒカメラ 3月号	写真と光線	昭12	一、五〇〇	
19	アサヒカメラ 一五〇号	特大号	昭13	一、五〇〇	
20	写真雑誌 カメラ特集	ローライ写真読本	昭11	一、五〇〇	
21	最新写真美術	鶴居武	昭45	七、〇〇〇	
22	密着写真美術	アサヒカメラ臨時増刊	昭11	三、五〇〇	
23	アマチュア春の写真術	アサヒカメラ臨時増刊	昭11	一、五〇〇	
24	人物写真術	アサヒカメラ臨時増刊	昭12	二、八〇〇	
25	月刊国際芸術写真雑誌 GALLERY	E&S 藝術特別号	昭13	一、五〇〇	
26	最新の写真知識	アサヒカメラ臨時増刊	昭10	二、五〇〇	
27	最新の写真知識	アサヒカメラ臨時増刊	昭12	二、五〇〇	
28	カメラの選び方	日本カメラ臨時増刊	昭26	四、〇〇〇	
29	カメラの使い方	北野邦雄写真機叢書	昭22	二、五〇〇	
30	特集フイアード最新35ミリカメラ選び方	全3冊	昭34	三、五〇〇	
31	原色日本の美術	小学館	昭30	五、〇〇〇	
32	文学に現れる国民思想の研究	津田左右吉	昭48	一四、〇〇〇	
33	御觸書集成	岩波書店	昭51	三六、〇〇〇	

〒606 京都市左京区北白川久保田町64の5
 社会科学系
 外山書店
 電話(〇七五)七〇一六六二七
 振替 京都 九一六三八四

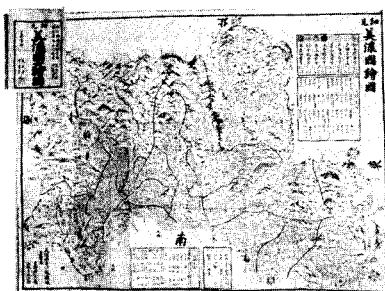
- 1 図書館学とその周辺 昭46 五五〇〇〇
 一 天野敬太郎先生古稀記念論文集
- 2 関谷不雄先生追記記念図書館学論文集 昭43 八〇〇〇〇
 図書館学・書誌学辞典 植村長三郎 昭42 二五〇〇〇
- 3 図書館と出版文化 弥吉光長喜寿記念 昭52 八〇〇〇
- 4 全国図書館二閣スル調査 昭和11年4月現在 文部省社会教育局 昭28 四〇〇〇
- 5 学校図書館の設備と運営 教育技術増刊 昭28 三〇〇〇
- 6 優良図書一覽 茗溪会読物調査部編 第一輯(昭4)〜第三輯(昭14)揃 三〇〇〇
- 7 総合出版年鑑 昭和7年版 図書研究会編 三〇〇〇
- 8 近代日本大出版事業史 杉村武 昭42 七五〇〇
- 9 日本古文書学 全3巻 中村直勝 昭52 三〇〇〇
- 10 きりしたん版文字攷 富永牧太 昭53 一五〇〇〇
- 11 書物往來 上・下 横山重 昭54 一五〇〇〇
- 12 書物往來 八木佐吉 昭54 一五〇〇〇
- 13 書物往來 山岸徳平 昭52 二〇〇〇
- 14 書誌学序説 八潮書店 昭57 七五〇〇
- 15 書物と世間 桑木嚴翼 昭18 二〇〇〇
- 16 沓掛伊佐吉著作集 一 書物文化史考 早川図書 昭54 四〇〇〇
- 17 沓掛伊佐吉著作集 第三巻 早川図書 昭54 二五〇〇
- 18 新潮社九十年図書総目録 志多三郎 昭57 一〇〇〇
- 19 街の古本屋入門 松見弘道訳 昭57 一〇〇〇
- 20 劉国鈞・図書の歴史と中国 松見弘道訳 昭58 二〇〇〇
- 21 劉国鈞・中国書物物語 松見弘道訳 昭58 二〇〇〇
- 22 潘吉星・中国製紙技術史 佐藤武敏訳 昭55 二〇〇〇
- 23 潘吉星・中国製紙技術史 佐藤武敏訳 昭55 二〇〇〇
- 24 本の雑誌 3号・23号と26号 45号の内8冊 本雑誌社 昭55 五〇〇〇
- 25 日本古書通信 昭和56年1〜12 全12冊 島屋政一 昭55 四〇〇〇
- 26 印刷文明史 第1〜3巻(3冊) 島屋政一 昭55 四〇〇〇
- 27 雑誌篇(少汚本) 明治文化全集 第18巻 立風書房 昭53 二五〇〇
- 28 新青年傑作選 全4冊 立風書房 昭50 八〇〇〇
- 29 美術贈写印刷の実際 昭和贈写室技術部 昭8 三〇〇〇

- 30 孔版印刷の仕方 金田雄亮 昭39 三〇〇〇
- 31 印書と軽印刷タイアの習い方 植本十一 昭41 二五〇〇
- 32 贈写印刷新術本 日本贈写芸術協組 昭49 二〇〇〇
- 33 製本総論事務用編 大阪製本工業協組 昭49 二〇〇〇
- 34 書画贈物語 湯浅半月 昭48 八〇〇〇
- 35 トム・キーティング 贋作者 瀧口進訳 昭54 一五〇〇
- 36 眞贋の世界 贋作者 瀧口進訳 昭52 一五〇〇
- 37 浮世絵 一その秘められた一面 高橋鐵 昭44 一〇〇〇
- 38 一茶のウイター・セクスアリス 大場俊助 昭40 三〇〇〇
- 39 ヴァリニヤ・日本巡察記 松田他編訳 昭40 二〇〇〇
- 40 研究社英文学叢書元版・赤本 昭4 6
- 41 研究社英文学語学講座 五〇〇〇
- 42 新研究社英文学講座 五〇〇〇
- 43 新研究社英文学講座 五〇〇〇
- 44 新研究社英文学講座 五〇〇〇
- 45 新研究社英文学講座 五〇〇〇
- 46 新研究社英文学講座 五〇〇〇
- 47 新研究社英文学講座 五〇〇〇
- 48 新研究社英文学講座 五〇〇〇
- 49 新研究社英文学講座 五〇〇〇
- 50 ストリーク・数学の歴史 岡邦雄他訳 昭32 二〇〇〇
- 51 ヒース・ギリシア数学史(II) 平田寛訳 昭43 二〇〇〇
- 52 ワルラス・純粋経済学要論(下) 岩波文庫 昭29 八〇〇〇
- 53 ギボン自叙伝 岩波文庫 昭18 一五〇〇
- 54 ハインマン・ゲテ伝 全四冊 岩波文庫 昭58 六〇〇〇
- 55 シュテューバー・租税国家の危機 岩波文庫 昭58 二〇〇〇
- 56 ロビーア・マツカシズム 岩波文庫 昭59 二〇〇〇
- 57 ゴンチャロフ・日本渡航記 岩波文庫 昭53 二〇〇〇
- 58 懐旧九十年 石黒忠恵 岩波文庫 昭58 一五〇〇
- 59 ワグナー・ベートオウエンまいる 岩波文庫 昭59 一〇〇〇
- 60 ボズウェル・サミュエル・ジョンソン伝(下) 岩波文庫 昭16 二〇〇〇
- 61 フォアレンダー・カントとマルクス(下) 岩波文庫 昭15 二〇〇〇
- 62 ジョーリンズ・地代論(上) 岩波文庫 昭15 二〇〇〇
- 63 ケトレー・人間に就いて(下) 岩波文庫 昭15 二〇〇〇
- 64 マキアヴェリ・フレイレンツエ史(下) 岩波文庫 昭35 二〇〇〇
- 65 リービッチ・化学通信(下) 岩波文庫 昭27 一五〇〇
- 66 カザノヴァ回想録(下) 岩波文庫 昭27 一五〇〇
- 67 聊斎志異 全四冊 柴田天馬訳 岩波文庫 昭45 二〇〇〇
- 68 ウェニゴール・クレオパトラ 岩波文庫 昭28 一〇〇〇
- 69 ケニオン・古代の書物 岩波文庫 昭28 一〇〇〇
- 70 中国の数学 穀内清 岩波文庫 昭49 一〇〇〇
- 71 クリスティ・奉天三十年 上下 岩波文庫 昭57 二〇〇〇
- 72 陰謀・暗殺・軍力 森島守人 岩波文庫 昭59 一〇〇〇
- 73 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 74 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 75 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 76 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 77 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 78 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 79 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 80 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 81 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 82 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 83 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 84 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 85 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 86 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 87 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 88 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 89 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 90 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 91 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 92 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 93 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 94 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 95 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇

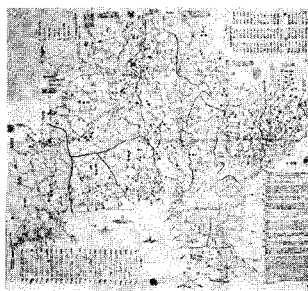
- 96 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 97 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 98 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 99 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 100 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 101 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 102 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 103 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 104 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 105 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 106 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 107 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 108 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 109 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 110 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 111 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 112 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 113 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 114 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 115 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 116 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 117 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 118 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 119 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 120 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 121 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 122 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 123 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 124 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 125 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 126 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 127 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 128 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 129 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇
- 130 日露陸戦新史 沼田多鶴藏 岩波文庫 昭57 一〇〇〇

〒604 京都市中京区寺町通錦上ル

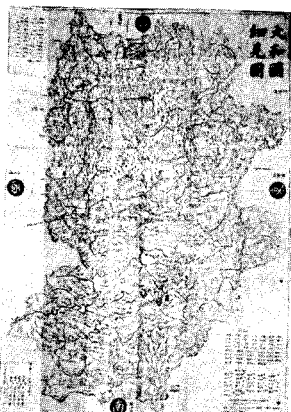
大書堂

電話(〇七五)二二一〇六八五
振替 京都 七十一三六五

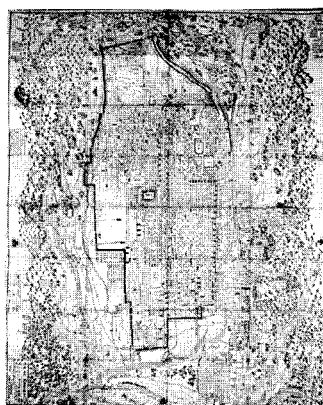
細見美濃國大絵図 天保15年刊 116×90cm
表紙題箋附 ¥85,000



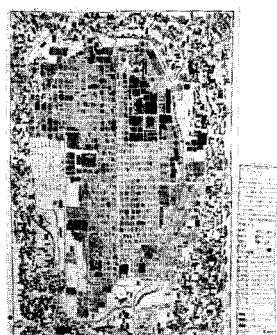
摂津國名所大絵図 無刊記 126×121cm
表紙題箋附 ¥68,000



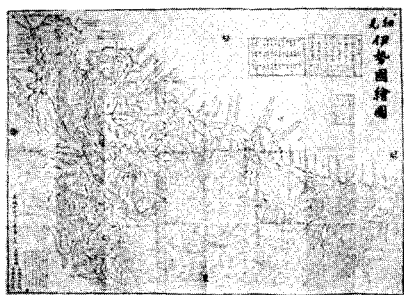
大和國細見絵図全 安永5年刊 152×106cm
表紙題箋附 ¥98,000



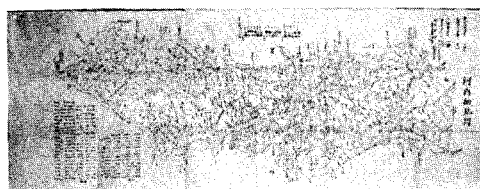
改正京町絵図細見大成 天保2年刊 180×143cm
表紙題箋附 ¥150,000



清中清外 町々小名 大成京細見絵図 元治元年刊 60×89cm
表紙題箋附 ¥38,000



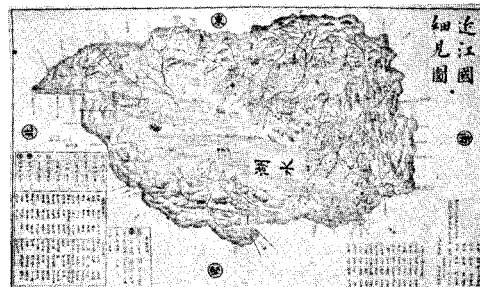
伊勢國大絵図 文政13年刊 108×143cm
表紙題箋附 ¥75,000



増補改正 河内細見図全 安永5年 148×56cm
表紙題箋附 ¥70,000



山城州大絵図 安永7年刊 103×190cm
表紙題箋附 ¥100,000



近江國大絵図全 文政7年刊 140×85cm
表紙題箋附 ¥120,000

そろいマンガ特集

電話(〇七五) 七一一一五四二九
振替 京都 七―三二〇八九

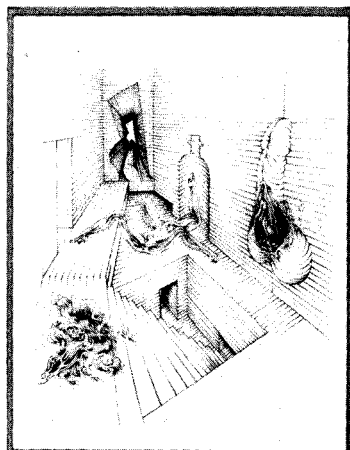
京極書房

電話(〇七五)三二五一
振替 京都 六一二四八八

34 階級社会の芸術

38 マルクス主義経済学
39 社会運動史

40	マルクシズムを中心として	山本勝市	昭和5	二、〇〇〇
41	貴族・資本家・労働者少暇	亀井貫一郎	昭和6	三、五〇〇
42	フアツシホカマルクスカ	室伏高信	昭和7	二、五〇〇
43	社会主義批判	〃	昭和14	一、五〇〇
44	中間階級の社会学	〃	昭和7	二、〇〇〇
45	新体制講話	〃	昭和15	一、〇〇〇
46	立憲勤王論	尾崎行雄	昭和6	二、〇〇〇
47	帝国主義研究	社会科学 3/2	昭和2	一、五〇〇
48	インタナショナルの歴史	奥附久	昭和初	二、〇〇〇
49	国際共産党の話	藤原信孝	昭和4	二、〇〇〇
50	貨幣廃止論	川島清治郎	昭和4	二、〇〇〇
51	革命伝説	神崎清	昭和44	四、〇〇〇
52	平民社時代	荒畑寒村	昭和48	三、八〇〇
53	幸徳秋水研究	糸屋寿雄	昭和48	四、五〇〇
54	モルガン古代社会	山本三吾記	昭和8	五、〇〇〇
55	変革期の人間と社会	マハンハイム	昭和43	三、〇〇〇
56	ウエーバー音楽社会学	安藤池宮倉	昭和44	三、〇〇〇
57	ヘーゲル社会的色慾論	紡方正清沢	昭和32	三、〇〇〇
58	ルンペン社会学	井上吉次郎	昭和7	二、五〇〇
59	生きんとするもの、力	水戸純三	昭和12	二、〇〇〇
60	差別善の提唱	田中精爾	昭和13	一、〇〇〇
61	安仏生活法	額田豊	昭和4	一、〇〇〇
62	自由人となるまで	川村理介	昭和3	二、〇〇〇
63	永遠の生命	初版背焼	昭和3	二、〇〇〇
64	未亡人論	初版	昭和12	三、〇〇〇
65	婦人の立場から	三宅やす子	昭和12	三、〇〇〇
66	ニーチェ	ベルトラム浅井真男訳	昭和13	三、五〇〇
67	ロゴスの研究	速水敬二	昭和16	三、五〇〇
68	アリストテレス形而上学	岩崎勉記	昭和17	二、五〇〇
69	シユパンの全体主義哲学	ルンペン	昭和17	二、五〇〇
70	シユパン歴史哲学	大野有翼訳	昭和18	二、〇〇〇
71	ベルグソン創造的進化	松浦孝作訳	昭和18	二、〇〇〇
72	ルディフ キイケン	大思想家之人生観	昭和18	二、〇〇〇



ハンスベルメール作画 ロートモレアン「マルドロールの歌」銅版画
40×32cm 百部限定番号・署名入 特製高級額入 2点 各285,000円

〒600

京都市下京区仏光寺通東洞院角

シルヴァン書房

電話(〇七五)三四一八七九三
振替 京都 一七九三八

1925年 裝飾美術と現代産業 パリ万国博覧会ポスター 3点
色刷石版 75×50cm 版上サイン 特製高級額入 各260,000円
① ルーボ作 ② ボンフリ作 ③ フーアデル

★ハンスベルメール「マルドロールの歌」九点在庫

★アール・ヌーボー・アールデコ期の
オリジナルポスター エスタンプ多数在庫

★新版初夢双六芳馬和泉屋 八五〇〇〇円也 双六十点在庫

★バルビエールバップ マーティ マルタン等アールデ
コ期の挿絵画家によるオリジナルポスター色刷
ファッションプレート多数在庫 領価一枚二〇、〇〇
〇円、三〇、〇〇〇円

和書の一部	
1 色情表徴	ハヴアックエリス著
2 変態性欲秘話	守田有秋著
3 変態處方箋	相馬一郎著
4 愛と残酷	田中香涯著
5 通俗性欲学	羽田銳治著
6 エビキュルの園	草野貞之著
7 青春傳書	尾崎士郎著
8 和蘭及外国関係並物品目録	杉浦丘園著
9 日本の風	俵有作編著
10 江戸看板図	林美一著
11 西陣史	佐々木信三・少しみ有 思文閣
12 琴平阿波国 著蔵山之岡 銅版図24図入 保存良	
13 洋燈考 大谷勝治郎著 藤田白 木版入 緑の笛	
14 巴里画壇の全貌 中村恒夫著 崇文堂	
15 古典感覚 坂ノ上言夫著 朝日書房	
16 イタリアルネッサンス美術史 上下巻	
17 日本人のからだ——生活と芸術にあらわれた——	岩崎美術社
18 絵画の製作と鑑賞 本文 岩崎書局	
19 レオナルド・ダヴィンチ 板谷勝雄著 日本評論社	
20 フラントル派 四大画家論 板谷勝雄著 岩波書店	
21 西洋名彫刻 古代篇 矢代幸雄著 福永書店	
22 天才人 内村鑑三著 岩波書店	
23 児童社会史 増田抱村著 厚生閣	
24 美術叢書 リア 古典期美術 矢田部達郎著 岩波書店	
25 西田武雄デッサン集 西田武雄編著 春鳥会	
限定300部番号入 昭6 五、〇〇〇	

津田書店

〒612 京都市伏見区深草直達橋北一丁目四七一
電話(〇七五) 六四三・六七八
振替 京都 〇一五・三三九

33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
京の老舗	京の酒	始末相統講式目	昭和五十年(株)藤井商店	昭和五十年(株)藤井商店	杉道助追悼録 上下2冊	花かごの譜	西陣機業概観と西陣郷土読本	すしと五十年 荒木信次	京町家コミュニティ研究 上田篤	天狗筆記物語―私説西陣の歴史―駒敏郎	京名菓百撰 臼井喜之介 白川書院	深田清君の面影 京大工学部土木教室	京一商八十八周年記念誌	乾百年史	中立百年誌	大蔵校百年誌	開智校百年誌	聚楽校百年史	出水校百年史	京都美術大観1 建築	上賀茂百年のあゆみ	近畿・山陰の風物	市老連十五年の歩み 京都市老人クラブ	明倫法 京都市明倫尋常小学校	風雪の花 順教尼物語 野沢純	元江院追憶 楠部敦子	清元寿兵衛 (株)邦楽と舞踊	祇園抄 柳町出版	舞台極楽 井上甚之助	わたしの京都 井上甚之助	京洛風流抄 石田民三 白川書院	京都風物抄 高桑義生 芸州堂
駒敏郎	八尋不二	三井家相統会	京都ライトハウス	(スキー毛糸)		鶴屋吉信	西陣信用		上田篤	駒敏郎	白川書院	京大工学部土木教室								建築	上賀茂小学校	大阪鐵道局	京都市老人クラブ	京都市明倫尋常小学校	野沢純	楠部敦子	柳町出版	井上甚之助	井上甚之助	石田民三	高桑義生	
昭46	昭47	昭47	昭31	昭31	昭40	昭40	昭42	昭51	昭52	昭52	昭46	昭42	昭49	昭45	昭44	昭44	昭44	昭45	昭44	昭9	昭15	昭15	昭14	昭14	昭54	昭42	昭47	昭47	昭48	昭22	昭22	
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	二、七〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	一、二〇〇	一、五〇〇	一、八〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	二、五〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

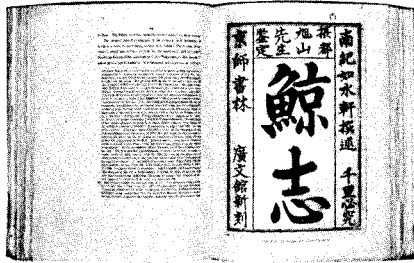
文庫堂

〒606 京都市左京区一乗寺塚本町106の2
白川ビル1F
電話(〇七五) 七二一・四四九
振替 京都 二一四・二五九

9	8	7	6	5	4	3	2	1
アポリネール動物詩集	二なき生命	ちりがみ文章	明治文学備考	随筆壇人閑語	湧然する女達々	いはの群	源氏物語の美術	日本の美術
堀口大学訳	城左門	初函	初函	初函	初函	初函	京都国立博物館	京都新聞社
大14	昭10	昭9	昭4	昭4	昭31	昭13	昭50	昭54
二、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	一、六〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇

臨川書店 大阪店

〒530 大阪市北区芝田一丁目六番二号
阪急古書のまち
電話(〇六) 三七四・一三〇〇
振替 京都 七七八・〇〇番



① フランク・ホーレー私刊 (英) 日本の鯨と捕鯨 限定365部 ¥200,000



② 和紙と漆 後藤清吉郎 限定百部 実物見本台 八五、〇〇〇円



③ 越中産紙手鑑 上村六郎・吉田桂介共著 限定二五〇部 昭29 一、二〇、〇〇〇円

〒604 京都市中京区新烏丸通竹屋町上ル

文藻堂

電話(五)二三一一九一四
振替 京都 八一六一五

1 村上鬼城賛 花菜面賛幅

山の端を吹流さる、雲雀かな

秋峰箱書紙装(本紙27×130) 美 一〇〇〇〇〇円



2 白田垂浪 春秋面賛幅

青麦に御の里輪の住みよげな
漕ぎ出で、遠き心やむしの声

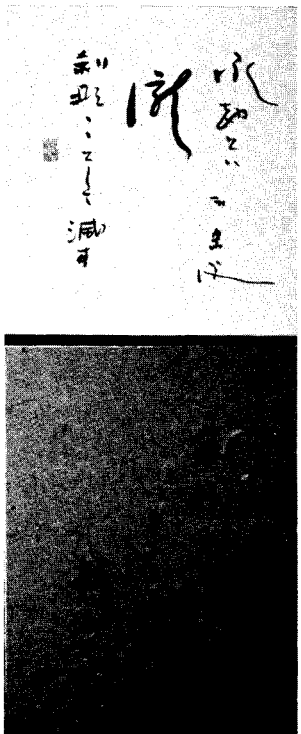
紙装(本紙16×129) 杉箱入双幅 美 一一〇〇〇〇円



3 荻原井泉水彩紙 美二五、〇〇〇円

4 田村木国 色紙(オリープ色長型) 美二一、〇〇〇円

寝静もりいよく月の極かな



5 松瀬青々 短冊 巻まれつ、歩みか、るや花の山

美 二二〇、〇〇〇円



6 青木月斗 短冊 梅の花冷き空の光哉

美 一五、〇〇〇円



7 中野三允 短冊 沙やけのしろさのこれり土踏ます

美 一〇、〇〇〇円



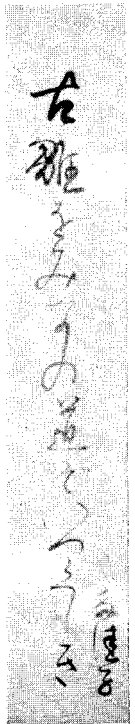
8 高田蝶衣 短冊 冬の夜や像と匠と影二つ

美 一五、〇〇〇円



9 橋本多佳子 短冊 古羅をみなぬ道ぞいつくしき(米地)

美 二八、〇〇〇円



- 10 内藤鳴雪 短冊 元日や、糸の天子不、の山 美 八、〇〇〇円
 11 筏井竹の門 短冊 蕨子屋ことく、冬の夜の夢の風清えて 美 一〇、〇〇〇円
 12 田村木国 色紙(円窓地) 雪山の大白砂の初鵄 美 一〇、〇〇〇円
 13 鈴鹿野風呂 色紙 親子柚子柿といふも小白年 美 五、〇〇〇円

〒600 京都市下京区寺町通五条上ル

藤井文政堂

電話(〇七五)三五一九三六三
振替 大阪 七三一一五一

33	陽明文庫図録	第六輯	文書	昭18	二〇〇〇
32	陽明文庫図録	第五輯	消息	昭18	二〇〇〇
31	陽明文庫図録	第二輯	古筆	昭16	二〇〇〇
30	陽明文庫図録	第一輯	宸翰	昭15	二〇〇〇
29	運命自観	松村安衛		昭2	八〇〇〇
28	太兆龜相伝	半紙本		昭39	八〇〇〇
27	占考要訣奇弁拔萃	鴨書店		昭28	三〇〇〇
26	春秋左伝古話考	加藤大岳		昭42	三〇〇〇
25	地相家相大鑑	小林白龍子	二冊	昭13	四〇〇〇
24	地相家相店相方鑑	松平英明		昭13	二〇〇〇
23	四柱推命字義総論	生田開山	A5	昭51	二〇〇〇
22	四柱推命字義講義	生田開山	A5	昭29	二〇〇〇
21	見真大師御旧跡要図略解	生田開山	半紙本	昭11	二〇〇〇
20	觀音十大願文絵抄	貝葉書院	大本	昭11	二〇〇〇
19	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
18	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
17	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
16	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
15	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
14	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
13	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
12	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
11	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
10	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
9	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
8	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
7	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
6	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
5	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
4	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
3	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
2	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇
1	觀音十大願文絵抄	堀宗海	大本	昭11	二〇〇〇

〒606 京都市左京区田中大久保町22
(東大路敷電交差北)

山崎書店

電話(〇七五)七一一七四八
振替 京都 〇一八三六

30	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
29	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
28	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
27	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
26	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
25	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
24	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
23	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
22	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
21	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
20	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
19	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
18	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
17	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
16	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
15	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
14	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
13	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
12	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
11	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
10	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
9	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
8	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
7	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
6	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
5	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
4	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
3	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
2	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇
1	映画女優	入江たか子	貼込有	昭32	二〇〇〇

〒602 京都市上京区鳥丸通今出川上ル
同志社正門前

沢田書店

電話(〇七五)四五一〇五二三
振替 京都 三一九一四八

32	中央公論	新年号再建第一号	昭21	月号	一〇〇〇
31	改造	新年号復刊第一号	昭21	月号	一〇〇〇
30	硝化綿工業	同協会編	昭21	月号	一〇〇〇
29	東亜酸酵化学論攷	山崎百治	昭28	月号	一〇〇〇
28	東京大都市圏に於ける住宅市場の計量分析	経済企画庁	昭20	月号	一〇〇〇
27	生活財生熊学	商品科学研究所	昭55	月号	一〇〇〇
26	現代日本産業講座	全八巻柳屋付美	昭34	月号	一〇〇〇
25	日露戦争史	後編 後藤先生	昭39	月号	一〇〇〇
24	パールイ万国史	英文	昭54	月号	一〇〇〇
23	蛇笏百景	童謡(下)	昭15	月号	一〇〇〇
22	世界童話大系	童謡(下)	昭15	月号	一〇〇〇
21	世界童話大系	童謡(下)	昭15	月号	一〇〇〇
20	世界童話大系	童謡(下)	昭15	月号	一〇〇〇
19	夏目漱石	全三冊	昭28	月号	一〇〇〇
18	長崎の美術工芸	越中哲也編著	昭56	月号	一〇〇〇
17	古版長崎地図集	限定版	昭52	月号	一〇〇〇
16	知られざるレオナルド	函付美本初刷	昭50	月号	一〇〇〇
15	日本古史の再吟味	溝口駒造小汚れ	昭19	月号	一〇〇〇
14	国語年鑑	昭52年版	昭19	月号	一〇〇〇
13	国文学通論	方法と対象	昭19	月号	一〇〇〇
12	国語年鑑	昭52年版	昭19	月号	一〇〇〇
11	国語年鑑	昭52年版	昭19	月号	一〇〇〇
10	新約全書解題	全	昭19	月号	一〇〇〇
9	死者之書	上下二冊	昭19	月号	一〇〇〇
8	アエスタ経	上下二冊	昭19	月号	一〇〇〇
7	印度古聖歌	全	昭19	月号	一〇〇〇
6	聖徳太子三経義疏	上下二冊	昭19	月号	一〇〇〇
5	四書集注	上下二冊	昭19	月号	一〇〇〇
4	日本書紀神代卷	全	昭19	月号	一〇〇〇
3	日本書紀神代卷	全	昭19	月号	一〇〇〇
2	世界聖典全集	分売	昭41	月号	一〇〇〇
1	三木清全集	全十九冊揃	昭41	月号	一〇〇〇

千 604 京都市中京区丸太町通千本西入南側

八木書店古書部

電話(〇七五) 八一—一三八九〇

- 1 達堂頼鉉筆特一紙中国詩箋二書ス頼春風孫 明17没三〇〇〇
2 石球水坂周筆漢詩小品一紙名古屋人代々医師 五〇〇〇
3 許尾筆 俳句二句并土郎句添の一紙 三〇〇〇
4 神仙戲術複製50部限定 岡山県児島 山本慶一 昭29 八〇〇〇
5 祇園南海筆 詩一紙小本木下順庵門 宝暦元没八〇〇〇
6 大徳寺23世大心義統老師筆 六字名号 享保15没三〇〇〇
7 子爵 藤原篤考 和歌一紙 三〇〇〇
8 長三洲書 金風の詩 一幅 明28没八〇〇〇
9 飯田秀雄筆 和歌一紙 本居太平門 三〇〇〇
10 武庫郡誌 武庫郡教育会 大10 一五〇〇
11 横橋鑑屋太夫筆 書狀一通五穀豊饒神納候云々 三〇〇〇
12 玉漢宗珠筆 南無本師釈迦牟尼大覺世尊一紙 八〇〇〇
13 本體卷 今般相伝候一卷 高橋興勝 享和元八〇〇〇
14 曙庵 神野虛白筆 日出和詩七言一幅 明39没三〇〇〇
15 金子雪操筆 伊勢長島藩主二仕付 写本 安政4没五〇〇〇
16 菅公像 貞信画 肉筆 一五〇〇
17 蛟川石臣集 甲骨文字双幅中国表具石臣筆 八〇〇〇
18 達摩大師像 清勇画 一幅 古画虫入 五〇〇〇
19 布金峰道榮和南書 一幅 賀超淳尊座の盛事 五〇〇〇
20 木版画 天皇皇后御二方面 雜祭用一幅 五〇〇〇
21 田原日親筆 みほとけが嵯峨野にみくだり即是道場一幅 五〇〇〇
22 錢塘顧小虎筆 扇面一幅 七言詩 五〇〇〇
23 富小路二位永則書 らしく一行三字 一五〇〇〇
24 僧興隆和南筆 八句講大經竟田賦詩 傷有一幅 三〇〇〇
25 攝政宮殿下の自動車狙撃号外大阪毎日 大坂朝日。各一点 大12 三〇〇〇
26 武庫山浪速短冊研究会 非売品 300部限定 大13 八〇〇〇
27 頭山滿筆 天地有生無偏私 一行一紙 虫入 大13 一五〇〇〇
28 北村季筆 法眼和歌一幅李吟中興虫入 嘉永3没五〇〇〇
29 下田歌子筆 長歌一紙 小品 八行 明治 三〇〇〇
30 山本葉谷画伯筆 書翰一通 江戶末五〇〇〇
31 季連筆 渡忠秋宛消息一通 本的事 明治初三〇〇〇
32 藤堂凌雲画伯筆 消息一通 梅逸門 江戶末五〇〇〇

- 33 芝閣 千葉玄之筆 扇面詩一紙 古河藩儒 宝暦10 八〇〇〇
34 驚亭筆 大黒図 一幅 江戶末 五〇〇〇
35 孝之公筆 法護禪師宛消息一幅御歸国之節堺表云々 八〇〇〇
36 久保田米庵筆 猪の図めぐり一絹 五〇〇〇
37 無声庵主 猷山和尚 露一字 一幅 八〇〇〇
38 呂翁祖師部郭古観古梅の図并詩真拓一紙 大8 五〇〇〇
39 攝津郷土史論 日本歴史地理学会 元禄9 三〇〇〇
40 本門日蓮宗要法寺 日舒上人筆おまんだら一紙 正徳元 三〇〇〇
41 日能上人筆 おまんだら一紙 江戶期 三〇〇〇
42 如春齊筆 芦雁渡る図 一幅 古画 昭9 一五〇〇
43 小絹色紙西田天香様78四方の海みならからと 昭9 一五〇〇
44 郷社行特殊慣行神事 大阪府刊 昭9 一五〇〇
45 甘符や手馴れぬ人の路んでゆく 加藤厚水画賛一幅 五〇〇〇
46 千休之内御室御所大僧都門空画大黒図一幅古画 八〇〇〇
47 木版 池田通郎画 菊之図一紙 一五〇〇
48 曹洞宗記山道白 達摩画像拓本一幅 明5 八〇〇〇
49 釈迦靈跡真図銅版 一幅 永正11没 一五〇〇
50 尊応准后筆 一行一幅 尊応流開祖 明5 一五〇〇
51 冷泉為恭画 加茂競馬 一幅 一五〇〇
52 和州当麻連系大曼荼羅 百分ノ一銅版一幅 八〇〇〇
53 自得軒筆 華草一瓶たのしみ云々心得書一幅 寛政元八〇〇〇
54 住吉広守筆 大和絵一組大虫入幕府絵所 安永6没 八〇〇〇
55 金地苔沢元法筆 詩一幅 南禅寺旧蔵古筆虫入 三〇〇〇
56 同明月可尋梅 邯鄲泉黄梁夢呂翁詞 真拓一紙 八〇〇〇
57 徹石之画 天下文章取胸懐 傷有読書老士像画一紙 五〇〇〇
58 筑前 聖福寺東瀛和尚筆 古徳云々書一幅 大10没八〇〇〇
59 栗山直扶筆 御歌所 和歌一幅 三〇〇〇
60 品川鑑一郎筆 扇面みそ乃歌一幅 松蔭門 明31没 三〇〇〇
61 菅原東郭筆 詩一幅祖 徠学派大阪住 宝暦13没 八〇〇〇
62 稻吉原筆 山水 一幅 文化14 八〇〇〇
63 リグレ一肖像画 銅版 一幅 五〇〇〇
64 尼崎志 第一篇 寺院編 尼崎市役所編 昭5 八〇〇〇
65 太上神仙鎮宅靈符紀州田辺祥福院蔵版一幅 八〇〇〇
66 大辨財功德天女御本尊 一幅 肉筆 彩色 八〇〇〇
67 俳諧之連歌 2紙 文化5 五〇〇〇
68 南都興福寺管長雲井良海師筆 消息一紙 明治治 一五〇〇
69 泰山上方元筆 短冊3枚はり付 梅竹菊画土佐藩士七郷落 一五〇〇
70 頼春風筆 号惟強名子師医師 二行詩一紙 山陽の叔父 八〇〇〇
71 タイ国文学 墨摺一紙 53 cm×47 cm 五〇〇〇

- 72 伝漢味玄集探要 四条隆生筆筆捲ノ料理秘伝秘書 安政3八〇〇〇
73 牧田熊八郎書狀一通越前守明23伏見歌書云々 文政11三〇〇〇
74 鈴木儀左衛門書狀一通圓善の催云々 江戶初一五〇〇〇
75 節山桃好裕筆 日柳燕石詩一紙頼一蘭門出雲儒者 明8没三〇〇〇
76 楽吉左衛門筆 覺狀一紙 藤田男爵宛 明治初五〇〇〇
77 古帯織機鑑札改升屋改後屋行事老分菊屋 文久3八〇〇〇
78 安井源左衛門筆来月火消隠岐守当番云々案内状一紙 三〇〇〇
79 粟生村年貢免割目録等 10点 文書 文政明治2八〇〇〇
80 鶴空僧浄光筆梅之図虫傷物 紙九割聖福寺八世天明5没八〇〇〇
81 忠安筆 花押入 消息一通 江戶初三〇〇〇
82 鴨岡伊賀守筆 書狀一通信金申込 江戶末 三〇〇〇
83 金原長衛繩正筆 大工相伝書一卷規矩 文化9 三〇〇〇
84 台宗総系譜 墨摺一紙 真宗釈惠白誌 天保11 三〇〇〇
85 玉泉玉峰竹堂筆豆画帳一冊無署名録計2冊 明4 三〇〇〇
86 正愛寸松大徳松源龍翔天瑞総見芳春各大和尚偈一紙 寛政12八〇〇〇
87 札法故実集儀一卷太刀折紙日録太刀配太刀等 嘉永6二五〇〇
88 臨時備忘山城綴喜八幡森下家記村木取引記録 明11 五〇〇〇
89 近江国坂田郡梅ヶ村六所神社本鑑村木取引記録 明11 五〇〇〇
90 連歌師里村玄川消息一通虫入二井高年宛へ里 明23 三〇〇〇
91 明治天皇外帝國貴顯肖像銅版一紙 明23 三〇〇〇
92 勤王志士 高橋有慶筆 消息一通 安政7没三〇〇〇
93 桐隠筆 梅の図 玄対門 一紙 明45没 三〇〇〇
94 猪熊夏樹筆虫入勸学歌一紙高松の八國學者 五〇〇〇
95 大橋東堤筆 詩一紙 京都書家 五〇〇〇
96 正二位 一条基弘筆 一行一紙 三〇〇〇
97 花道伝書 一通 森松庵一郷筆 天保14 三〇〇〇
98 市河米庵(三亥) 消息一通 五〇〇〇
99 中島清画伯筆 書狀一通 三〇〇〇
100 柔道十段 磯貝一先生書翰一通 三〇〇〇
101 佐川田喜六筆 消息一幅松花堂宛 茶人武道家 江戶初一五〇〇〇
102 丹波八木町故人の面影 八木町編非売品 八〇〇〇
103 伝龍池院宮二品尊朝親王筆消息 卷尊朝親王 慶長2没八〇〇〇
104 快川紹喜筆書狀一通天正10慧林寺火定 五〇〇〇
105 難屋立圓筆 匂入り消息一幅 五〇〇〇
106 久田宗理筆 消息一幅奈良高名理術花押入 貞享2没三〇〇〇
107 国学院雜誌 明31〜バラ18冊 国学院編 八〇〇〇
108 雑誌 皇国 大11〜バラ15冊 全国神職会 五〇〇〇
109 雑誌 神祇の日本 大37冊 大日本神祇会 三〇〇〇
110 PAPER, AND, ITS, USES 英国刊 元四 一五〇〇〇

其 中 堂

〒604 京都市中京区寺町通三条北

電話(〇七五)二二二二九七一
振替 京都 二二五三三八

1	日本仏教史	辻善之助	十冊揃	昭和44	四〇〇〇
2	日本仏教史の研究	辻善之助	二冊揃	昭和33	三〇〇〇
3	講座 禅	筑摩書房	八冊揃	昭和49	一八〇〇〇
4	現代意識根本仏典叢書	同刊行会	十二冊揃	大13	二〇〇〇〇
5	智積院史	村山正栄		昭和9	二〇〇〇
6	永平寺年表	付録共 熊谷忠興		昭和53	二五〇〇
7	仏教思想の基礎	宇井伯寿		昭和19	五〇〇〇
8	仏教起論	宇井伯寿		昭和38	二〇〇〇
9	大乘起信論講話	加藤咄堂		大14	四〇〇〇
10	大仏及大仏殿史	奈良大仏供養会		大4	一八〇〇
11	観音の信仰	吉田修夫		昭和13	一〇〇〇
12	一遍上人伝	吉田清		昭和22	一〇〇〇
13	禅林寺縁由	22頁 禅林寺		昭和13	一〇〇〇
14	新仏教論	少破 中西牛郎		明25	一五〇〇
15	正信偈講話	大行寺信曉		明36	一〇〇〇
16	安心精密真宗説教便覧	為法館		明31	一〇〇〇
17	入出二門偈講話	蓮元滋広		明43	一〇〇〇
18	信行一念章講述	善覚寺法宣		昭和9	一〇〇〇
19	九條武子夫人の臨終	木辺孝滋		昭和5	二〇〇〇
20	訓読本立正安国論	田中智学		明27	三〇〇〇
21	国訳扶桑略記	音馬美蔵		明5	四〇〇〇
22	仏立開導長松日扇	村上重良		昭和51	二五〇〇
23	校訂臨濟録	釈 宗演		昭和7	一五〇〇
24	臨濟	伊藤古鑑		昭和16	二五〇〇
25	十牛図	柴山全慶		昭和29	二五〇〇
26	鉄眼と宝洲	石田誠斎		大11	三〇〇〇
27	一休逸話集	松尾曉天		大4	二〇〇〇
28	道元禅師 少痛ミ	荒井涙光		大4	二五〇〇
29	本山版縮刷正法眼蔵	本恵		昭和18	二五〇〇
30	機智の妙用	破魔禅居士		大3	二〇〇〇
31	禅学研究58号	一禅と東洋思想の諸問題		昭和45	三〇〇〇
32	禅の研究	理想特輯号		昭和12	一〇〇〇
33	東洋思想	一		昭和11	一〇〇〇

三 密 堂 書 店

〒600 京都市下京区寺町通仏光寺下ル

電話(〇七五)三五一九六六三
振替 京都 四一三四七一

1	親鸞聖人の教学と伝記	真宗連合会	百華苑	昭和36	二二〇〇
2	現代に生きる親鸞	西本願寺教学会	筑摩書房	昭和48	一五〇〇
3	歴史のなかの親鸞	西本願寺教学会	筑摩書房	昭和48	一五〇〇
4	真宗講話	河崎顯了著	法蔵館	昭和3	五〇〇〇
5	口語訳教行信證	金子大栄著	法蔵館	昭和55	三〇〇〇
6	浄土教縁起	金子大栄著	雄渾社	昭和47	一五〇〇
7	近世真宗史の諸問題	梅原真隆著	顕真寺苑	昭和37	二〇〇〇
8	真宗提要	梅原真隆著	専長寺	昭和26	二〇〇〇
9	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
10	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
11	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
12	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
13	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
14	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
15	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
16	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
17	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
18	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
19	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
20	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
21	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
22	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
23	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
24	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
25	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
26	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
27	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
28	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
29	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
30	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
31	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
32	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇
33	親鸞聖人の面影	梅原真隆著	専長寺	昭和27	二〇〇〇

福 田 屋 書 店

〒696 京都市左京区田中里ノ前町55

電話(〇七五)七八一三三二六
振替 京都 八四四二五六

1	第二次世界大戦史	全10冊揃	弘文堂	昭和38	一五〇〇〇
2	実録太平洋戦争	全7冊揃	中央公論社	昭和35	四〇〇〇
3	日本陸海軍の制度組織人事	日本近代史	研究會	昭和47	一五〇〇〇
4	近代日本軍事史概説	小山弘健		昭和19	一五〇〇〇
5	日本ファシズム史	田中物五郎		昭和47	四〇〇〇
6	中国近代軍閥の研究	波多野善大		昭和43	二〇〇〇
7	海軍 全14冊揃	史料調査会海軍文庫		昭和56	七〇〇〇
8	日露戦史(本文揃)	参謀本部	十冊揃	明45	一五〇〇〇
9	20世紀初頭世界の軍服	国書刊行会編		昭和59	四〇〇〇
10	海軍豫備学生生徒	3冊揃	国書刊行会	昭和61	二四〇〇〇
11	野島印を日本の軍事郵便	大西二郎		昭和41	七五〇〇
12	日本海軍艦艇図面集	原昭雄監修 日本海軍百年史		昭和50	一六〇〇〇
13	写真図説帝國連合艦隊	ありし日の 福井静夫		昭和45	四〇〇〇
14	写真集日本の軍艦	海軍艦隊 楽水会編		昭和59	八〇〇〇
15	海軍軍楽隊	史の原典 楽水会編		昭和56	五〇〇〇
16	望郷満洲	国書刊行会		昭和50	五〇〇〇
17	写真集満蒙開拓青少年義勇軍	家の光協会		昭和50	五〇〇〇
18	写真集懐かし千島	全編集委員会		昭和50	五〇〇〇
19	世界の軍用機	毎日新聞社		昭和8	二〇〇〇
20	飛行機の安定と操縦	小川太郎工政会		昭和9	二〇〇〇
21	飛行機操縦士試験問題解答集	航空時代社		昭和17	二〇〇〇
22	フライング設計から飛すまで	鈴木正五		昭和18	一五〇〇
23	リヒトフ 戦斗機中隊	那山千冬訳		昭和21	一五〇〇
24	戦斗機の発展	フルカナル七郎		昭和21	一五〇〇
25	史料明治武道史	渡辺一郎編		昭和46	一五〇〇〇
26	剣道神髄と指導法詳説	谷田二編		昭和9	六五〇〇
27	剣士内藤高治	大野熊雄	表紙少損	昭和11	二〇〇〇
28	趣味の刀剣研磨術	大村邦太郎		昭和12	四〇〇〇
29	猶太民族の世界的活動	渡辺己之次郎		昭和17	三〇〇〇
30	アイヌの叫び	貝沢藤蔵		昭和17	三〇〇〇
31	支那学 小島祐馬	本田成之選	歴記念号	昭和12	一五〇〇〇
32	東洋思想研究	津田左右吉		昭和29	一五〇〇〇
33	ブトレマイオス世界図	増内啓 明訳		昭和53	七五〇〇

千 604 京都市中京区河原町通六角下ル

赤 尾 照 文 堂

電話(〇七五)二二二一五八八
振替 京都 五一三三二一六

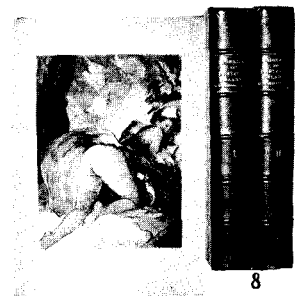
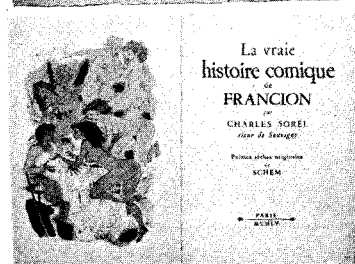
1	日本の英学一〇〇年	全4	大村・高梨	昭43	三、五〇〇
2	日本英学資料解題	大阪女子大学図書館	昭37	三、五〇〇	
3	明治初期翻訳文学の研究	柳田 泉	昭36	二、〇〇〇	
4	日本英語文化史の研究	杉本つとむ	昭60	三、〇〇〇	
5	日本英文学の系統	矢野峰人	昭36	四、〇〇〇	
6	日本英文学会五十年史	日本英文学会	昭53	一、〇〇〇	
7	上野直蔵博士還暦記念論文集	同刊行会	昭38	七、〇〇〇	
8	英文学史研究 ②③④⑤⑥	分売	昭45	各三、五〇〇	
9	英文学と英語学	刈田元司教授還暦記念	昭49	二、〇〇〇	
10	英文学風土記	石田憲次	昭47	四、八〇〇	
11	英文学のよこび	石田憲次	昭40	二、八〇〇	
12	いくたびか夏過ぎて	福田隆太郎	昭60	一、五〇〇	
13	蝸中の殻	宮西光雄	昭39	一、八〇〇	
14	荊冠の愛 英文学樓記	池田 正	昭58	一、八〇〇	
15	英文学動物ばなし	加藤憲市	昭39	四、〇〇〇	
16	湖畔通信・鶴沼通信	喜安璉太郎	昭47	二、八〇〇	
17	英文学研究 第5冊	東京帝大英文学会	大12	四、〇〇〇	
18	近代作家と西欧	太田三郎	昭52	一、五〇〇	
19	現代作家と日本文学	福田・剣持・小田	昭50	一、五〇〇	
20	新訂『文学界』と西洋文学	矢野峰人	昭45	二、八〇〇	
21	近英文芸批評史	矢野峰人	昭18	四、〇〇〇	
22	18世紀に於ける英文学と社会	矢野峰人	昭11	一、〇〇〇	
23	19世紀英文学	島田謹二	昭26	一、〇〇〇	
24	20世紀文学	御興員三	昭48	一、五〇〇	
25	イギリス文学	御興員三	昭43	二、〇〇〇	
26	イギリス小説論	近藤いね子	昭43	二、〇〇〇	
27	イギリス小説序論	小池・山本	昭49	四、〇〇〇	
28	英吉利現代批評文学	成田成寿	昭11	八、五〇〇	
29	現代英国作家論	上田 勤	昭37	三、八〇〇	
30	英文学の特質	福原麟太郎	昭29	二、〇〇〇	
31	ロマン主義	上島建吉	昭46	一、〇〇〇	
32	象徴主義	倉智恒夫	昭47	一、〇〇〇	
33	アイルランドの文芸復興	向山素子	昭48	一、二〇〇	

34	イギリス文学と詩的想像	尾島庄太郎	昭47	四、八〇〇
35	英国劇の苗床 IAGOの祖先	木方庸助	昭42	二、五〇〇
36	現代英詩の表現	佐々木 達	昭30	三、〇〇〇
37	英国の詩論	深瀬基寛	昭31	二、〇〇〇
38	英詩とわたし	大浦幸男	昭53	一、五〇〇
39	象徴主義と英詩 カザミヤン	岡本竹園	昭40	一、八〇〇
40	ヴィクトリア朝の詩	矢野木積	昭46	三、五〇〇
41	現代詩の領域	福田隆太郎	昭35	一、五〇〇
42	英詩考一ことばと詩・楽園喪失論 御興	昭44	二、八〇〇	
43	英文学 詩と自然	村岡 勇	昭49	二、〇〇〇
44	チヨウサー研究	樹井迪夫	昭48	七、〇〇〇
45	チヨウサーのトロイラス論	上野直蔵	昭47	三、〇〇〇
46	エドワード二世 マーロウ	永石憲吾	昭55	一、五〇〇
47	タンバレーン大帝 マーロウ	永石憲吾	昭52	一、五〇〇
48	シェイクスピア全集 1115	白水社	昭48	二、五〇〇
49	シェイクスピア全集 坪内逍遙	新樹社	昭48	一、五〇〇
50	シェイクスピア批評史研究	中西信太郎	昭37	三、六〇〇
51	総合研究シェイクスピア	中野・小津	昭35	二、五〇〇
52	シェイクスピアの劇場と舞台	菅 泰男	昭48	二、五〇〇
53	シェイクスピア詩集	中西信太郎	昭48	二、〇〇〇
54	ミルトン研究	宮西光雄	昭36	二、〇〇〇
55	ロバート・バーンズ	伊津直直	昭34	七、〇〇〇
56	ラムの思考様式	橋 泰来	昭38	三、五〇〇
57	日時計	橋 昌家	昭24	二、〇〇〇
58	デイケンズの世界 ウイルソン	松村 開三	昭57	二、五〇〇
59	デイケンズの英語	山本忠雄	昭26	二、〇〇〇
60	我意の人 上下	国民文庫	昭2	八、〇〇〇
61	クリスティーナ・ロゼツタイ	竹友藻風	昭13	二、五〇〇
62	ラッパージュム エイミス	福田隆太郎	昭33	三、五〇〇
63	ウォルター・ペイター論集	植木鍊之助	昭51	六、八〇〇
64	ウォルター・ペイターの研究	植木鍊之助	昭35	一、八〇〇
65	享楽主義者メイリアス 上下	大澤 衛	昭15	二、三〇〇
66	ハーディ研究	増山 学	昭35	二、五〇〇
67	窮余の策	安田章一郎	昭59	二、四〇〇
68	ホプキンスのころ	後藤・増野	昭54	二、五〇〇
69	モームと私生活 朱半田夏雄・竹内正夫	昭43	三、八〇〇	
70	モーム研究 モーム全集③	酒本雅之	昭34	一、八〇〇
71	D・H・ロレンス	酒本雅之	昭49	一、八〇〇
72	ロレンス研究 虹	ロレンス研究会	昭52	五、〇〇〇

73	ロレンス研究 喧嘩した女	ロレンス研究会	昭57	一、五〇〇
74	ロレンス研究 恋する女たち	〃	昭54	五、〇〇〇
75	ロレンス研究 白孔雀論集	〃	昭48	五、〇〇〇
76	ロレンス研究 息子と恋人	〃	昭50	五、〇〇〇
77	J・ジョイス研究序論	望月満子	昭54	二、〇〇〇
78	ベケット論	諏訪部仁	昭47	二、〇〇〇
79	創造的要素	深瀬・村上	昭44	二、八〇〇
80	一篇の詩ができるまで	徳永暢三	昭45	二、〇〇〇
81	スペンダー評論集	福田・徳永	昭43	二、四〇〇
82	世界の中の世界	高城小松	昭34	五、〇〇〇
83	ミス・プロウディの青春	大島 正	昭52	八、〇〇〇
84	ハロルド・ピンター全集 全3	新潮社	昭41	二、五〇〇
85	ドン・フオアン原型の研究	柳田 泉	昭13	二、五〇〇
86	衣裳哲学	増野正衛	昭27	二、四〇〇
87	衣裳論	石田憲次	昭25	二、五〇〇
88	アメリカ文学の研究	成田成寿	昭24	二、五〇〇
89	アメリカ文学思想	高垣松雄	昭34	二、五〇〇
90	アメリカ文学論	佐渡谷重信	昭30	二、五〇〇
91	作家の作品とスタイル	志賀 勝	昭29	二、〇〇〇
92	アメリカの短編小説	高村勝治	昭32	三、五〇〇
93	アメリカ文学現実主義時代	谷萩弘道	昭44	三、八〇〇
94	アメリカ文学とクリスト教	高村・大橋	昭30	二、八〇〇
95	現代アメリカ小説序論	木村 毅	昭35	二、五〇〇
96	アメリカ・ルネッサンス研究	東山正芳	昭36	五、五〇〇
97	アメリカの現代小説	川津孝四	昭47	二、〇〇〇
98	批評の時代 オカーナー	木村 毅	昭30	二、八〇〇
99	アメリカ英語とその文体	石田 憲次	昭33	五、五〇〇
100	日米文学交流史の研究	川津孝四	昭33	五、五〇〇
101	エマソンとネオヒューマニズム	東山正芳	昭36	五、五〇〇
102	ソロー研究	川津孝四	昭47	二、〇〇〇
103	ソロー研究	川津孝四	昭47	二、〇〇〇
104	H・シェイムズ作品集 全8	国書刊行会	昭33	四、五〇〇
105	H・シェイムズ書誌	沖田 一	昭58	三、五〇〇
106	ドレイザー短篇集	安藤正瑛	昭49	二、〇〇〇
107	教授の家	高橋正明	昭48	二、〇〇〇
108	灰の水曜日研究	高橋正明	昭38	四、〇〇〇
109	ヘンリー・ミラーとその世界	高橋正明	昭38	四、〇〇〇
110	フー・クナナーの世界	高橋正明	昭38	四、〇〇〇

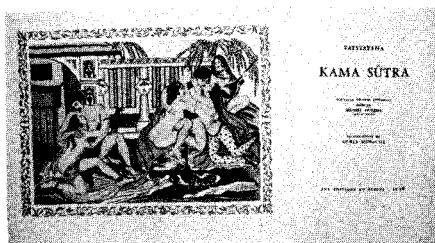
赤尾照文堂古書通信(国文・歴史) 一九八八年 月号発行中

赤尾照文堂古書通信(国文・歴史)一九八八年一月号発行中



好色絵入 仏文限定艶本特集

(原題、著者、など詳しく説明した目録を
用意しております。ご請求下さい。)



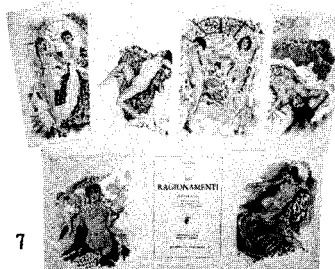
2



4



5



7



9



10

キクオ書店
電話 (〇七五) 二二一七六三四
振替 京都 八一七六四〇

〒604 京都市中京区河原町通三条上ル
(朝日会館前)

1 ファビアーノ画 「ジェロームの華麗なるアバンチュール」

1951年刊 72部限定番号入 手彩色銅版図10葉入及別刷銅版図2組付

125,000

2 ミナシェ画 性経「カーマー・ストラ」

n. d. 900 部限定番号入 彩色石版図16葉入

80,000

3 シェム画 「女たらしフラージュの身上話」 1955年刊 101部限定番号入 彩色銅版図15葉及別刷銅版図1組付

85,000

4 グランバイレ画 「愛の技巧」 1948年刊 895 部限定番号入 手彩色石版図10葉入

60,000

5 ルメリ画 「千夜一夜物語」 n. d. 彩色細密挿絵多数入

85,000

6 ベガ画 「放蕩者の生涯」 1951年刊 131 部限定番号入 彩色銅版図11葉入及別刷銅版図1組付

85,000

7 シモ画 「ナンナ嬢の性遍歴」 2冊 1957年刊 1000部限定番号入 彩色石版図17葉入

68,000

8 バガリーガ画 「17世紀好色作家詞華集」 2冊 1932年刊 3100部限定番号入 彩色及単色図版多数入

85,000

9 風刺的艶詩集 「ル・パルナス・サティリック」 1950年刊 500部限定番号入 性愛描写図16葉入

40,000

10 イゼラック画 「遊蕩者物語」 n. d. 150 部限定番号入 手彩色石版図16葉入及別刷銅版図1組付

75,000

〒603 京都市北区大宮南田尻町一八
古書籍 東方書店

電話(〇七五) 四九二二三三四
振替 京都 九一五三二〇九

33	生物 全 中等学校教科書株式会社 検定済	昭19	二,五〇〇
32	改定された小中学校社会科の解説 文部省	昭30	三,〇〇〇
31	四明会誌 創刊号 京都帝大農学部	昭8	三,〇〇〇
30	春錦会誌 創刊号 京都府立第一高女	昭2	三,〇〇〇
29	くにのあゆみ 上 文部省 (背破れ)	昭21	二,五〇〇
28	民主主義 文部省	昭23	三,〇〇〇
27	新選教育学 全 宝文館蔵版 検定済	大元	三,〇〇〇
26	卒業証書 尋常小学校 文部省	昭5	六,〇〇〇
25	高等小学国史 上下 文部省	昭15	八,〇〇〇
24	初等小学国史 第五学年 朝鮮総督府	昭9	三,〇〇〇
23	尋常小学国史 上 文部省	昭4	三,〇〇〇
22	尋常小学国史 下 文部省 (背ヤブレ)	昭25	三,〇〇〇
21	概要新日本史 史学教育研究会	昭24	一,五〇〇
20	家庭 中学校第二学年用 文部省	昭21	三,〇〇〇
19	日本の歴史 下 文部省	昭11	三,〇〇〇
18	教育陣営 中江藤樹先生の研究 江洲公論社	昭21	八,〇〇〇
17	米國教育使節團報告書 文部省	昭6	三,〇〇〇
16	高知県立盲啞学校一覽	昭8	三,〇〇〇
15	高知県立盲啞学校一覽	昭2	三,〇〇〇
14	私立台北盲啞学校一覽	昭2	三,〇〇〇
13	年報 京都府立一中	昭12	三,〇〇〇
12	年報 京都府立一中	昭12	三,〇〇〇
11	年報 京都府立一中	昭12	三,〇〇〇
10	初等科国史 上 教師用 文部省	昭18	三,〇〇〇
9	尋常小学国史 下巻 文部省	昭8	三,〇〇〇
8	尋常小学国史 上巻 尋常科用 文部省	昭9	三,〇〇〇
7	尋常小学修身書 一巻 児童用 文部省	昭22	二,〇〇〇
6	家庭 中学校第二学年用 文部省 (書込み有)	昭24	三,〇〇〇
5	民主主義 上下 文部省	昭24	三,〇〇〇
4	年報 京都府立一中	昭9	三,〇〇〇
3	卒業証書 下等小学第八級 一枚 滋賀県立小	昭23	二,五〇〇
2	職業指導 中学校用 日本職業指導協会	昭23	二,五〇〇
1	尋常小学唱歌 第四学年用 文部省	大元	二,〇〇〇

34	年報 至大正三年 京都府立一中	昭10	三,〇〇〇
35	開校十年誌 一 天理女子学校	昭10	三,〇〇〇
36	東京高師附属中学校一覽 至大正三年四月	昭34	三,〇〇〇
37	同和教育に関する小学校教師の意識調査 京都市教育	昭25	三,〇〇〇
38	年少労働者の教育と訓練 労働省婦人少年局	昭25	三,〇〇〇
39	現代裁縫教科書 吉村千鶴 検定済	昭25	三,〇〇〇
40	職業 職業の知識3 中学校用 (書込み有)	昭26	三,〇〇〇
41	一般社会 高等学校社会科研究会 (書込み有)	昭23	二,〇〇〇
42	中学農業 第一学年用2 文部省	昭41	二,〇〇〇
43	修正本邦史綱 上下 峰岸米造 検定済	昭16	二,〇〇〇
44	最近大教育学 全 熊谷五郎	昭16	二,〇〇〇
45	ともどり 第三十七号 京都府女子師範	昭11	二,〇〇〇
46	会誌 第27、38号 京都府立一中学友会	昭9	二,〇〇〇
47	尋常小学校国史附図 第五学年用 文明堂立川書店	昭28	三,〇〇〇
48	産根高等商業学校一覽 第六年度 自昭和三年	昭28	三,〇〇〇
49	京都郷土芸能誌 京都市産業観光局観光課	昭28	三,〇〇〇
50	小学生の心理と教育 大西誠一郎	昭28	三,〇〇〇
51	普通教育地文教科書 (山崎芳子著 書込み有)	昭39	三,〇〇〇
52	京都及其附近野外教授資料 京都府立一中	昭6	四,〇〇〇
53	全国大学院生11月集会基調報告 第二部	昭27	一,七〇〇
54	戦後日本の科学技術政策と大学院	昭27	三,〇〇〇
55	学習指導の基本問題 青木誠四郎	昭27	三,〇〇〇
56	ひらけいくびわ湖 滋賀県教育会 (背破れ)	昭11	二,〇〇〇
57	滋賀県教育会五十年史 滋賀県教育会	昭27	三,〇〇〇
58	滋賀県社会福祉事業要覧 滋賀県民生部 (会誌)	昭27	三,〇〇〇
59	軍事援後事務提要 京都市役所社会課	昭13	六,〇〇〇
60	児童保護講演集 京都市役所社会課	昭10	四,〇〇〇
61	同和教育指導事例集 (手引第三集) 奈良教育委	昭29	三,〇〇〇
62	同和教育実践記録第一集 京都市同和教育研	昭29	三,〇〇〇
63	同和教育の現状その具体的実践内容	昭29	三,〇〇〇
64	第11回研究大会報告、全国同和教育研究協	昭15	三,〇〇〇
65	青年カード 大日本総合青年団 (No.136 内12号)	昭15	三,〇〇〇
66	満洲土俗人形 満洲郷土色研究会	昭2	三,〇〇〇
67	ウーマンカレント 27年7月号	昭2	三,〇〇〇
68	手帖 第一巻第六号 文芸春秋社	昭2	三,〇〇〇
69	饗宴 第二巻第三号	昭2	三,〇〇〇
70	人民文化の建設 第一回全日本民主主義文化会議報告	昭22	三,〇〇〇

71	マルクス主義の旗の下に 第22号プロレタリア科学研	昭7	四,〇〇〇
72	プロレタリア科学パンフレット 第2号	昭7	四,〇〇〇
73	理科物語地球の姿 貴志敏雄	昭7	五,〇〇〇
74	台湾総督府台北中学校一覽	昭4	四,〇〇〇
75	新要目 唱歌遊戯及行進遊戯の新指導 洪井天	昭11	六,〇〇〇
76	くにのあゆみ 上下 文部省 (書込み有)	昭21	五,〇〇〇
77	京都大学一覽 昭和十六年	昭30	四,〇〇〇
78	第二十二世紀英文学五十年史 金子健二	昭16	三,〇〇〇
79	会報 第十三号 三高同窓会	昭3	三,〇〇〇
80	裁縫科新教授法 東京女子専門学校	昭3	五,〇〇〇
81	教師のための数学史 数教育双書	昭3	四,〇〇〇
82	世界の教育 一九五六年版 日本ユネスコ国内委	昭6	八,〇〇〇
83	海外大学教育総合調査報告書 民主教育協会	昭6	八,〇〇〇
84	五弦琵琶弾譜 筑前琵琶宗家	昭6	二,〇〇〇
85	学校衛生統計報告書 昭和31、32、33年度 文部省	昭18	三,〇〇〇
86	初等科音楽一 文部省	昭17	三,〇〇〇
87	初等科裁縫 上 文部省	昭17	二,〇〇〇
88	テホン 上 教師用 文部省	昭16	二,〇〇〇
89	カズノホン 三、四 文部省	昭16	二,〇〇〇
90	金城 創刊号 京都府立桃山中学校同窓会	昭7	三,〇〇〇
91	学友会報 第四号 山口高等商業学校学友会	昭8	三,〇〇〇
92	会誌第二十号 京都府立三中	昭3	三,〇〇〇
93	学校教練ノ参考書 京都府立三中	昭15	二,〇〇〇
94	産業組合教科書 産業組合中央会	昭2	三,〇〇〇
95	造林学本論 本多静六 (書込み有)	昭14	三,〇〇〇
96	よみかた三 文部省	昭18	三,〇〇〇
97	帝国新文典 上下 芳賀矢一 検定済	昭12	四,〇〇〇
98	ヨイコドモ 下 文部省	昭16	三,〇〇〇
99	よみかた四 文部省	昭17	二,〇〇〇
100	初等科図画一 文部省	昭17	二,〇〇〇
101	ことばのおけいこ三、四 文部省	昭17	六,〇〇〇
102	初等科国語三 文部省	昭17	三,〇〇〇
103	エノホン 二、三、四 文部省	昭16	八,〇〇〇
104	真砂 第四年第三号	昭15	三,〇〇〇
105	満日対訳百日速成日語読本 殷海樓	昭2	三,〇〇〇
106	晩近心理学 小川正行他 検定済	昭13	三,〇〇〇
107	晩近教育学 小川正行他 検定済	昭13	三,〇〇〇
108	正則洋画講義録 石井柏亭	昭11	五,〇〇〇
109	京都府治要覧 京都府 昭八、九年度	昭11	四,〇〇〇

〒606 京都市左京区浄土寺西田町八十一

法律・経済思想
一般書
竹岡書店電話(〇七五) 七六一―四五四
振替 京都 五一四二六一二

品切・絶版文庫特集

岩波文庫

1 アーレニウス 史的に見たる科学的宇宙観の変遷

2 アリストパネス 鳥 寺田寅彦 昭6 一、〇〇〇

3 アリストパネス 女だけの祭 呉茂一 昭44 一、〇〇〇

4 イエリネク 法・不法及刑罰の社会倫理的意義 大森英太郎 昭11 二、〇〇〇

5 ヴィンogradov 慣習と権利 青山道夫 昭11 二、〇〇〇

6 ウイリアム・ジェームズ 心理学 今田恵 昭26 一、五〇〇

7 エリス 夢の世界 藤島昌平 昭16 二、〇〇〇

8 エルベール編 ガンディー聖書 蒲穆 昭29 一、〇〇〇

9 エンゲルス 自然辯證法 加藤正・加古祐二 昭8 一、〇〇〇

10 オシアン(ケルト民族の古歌) 中村徳三 昭21 二、五〇〇

11 カウツキー 農業問題 向坂逸郎 昭21 二、五〇〇

12 カント 人間学 坂田徳男 昭60 一、五〇〇

13 グリルバルツェル 祖傳 岡本修助 昭16 一、五〇〇

14 ケイ 戀愛と結婚 原田實 昭5 二、〇〇〇

15 チャールズ・ダーウィン 自叙伝宗教観及び其追憶 小泉丹 昭2 二、三〇〇

16 デュエニス デイジー・ミラー 渡辺、川田 昭15 二、〇〇〇

17 デュエニス 法と国家 堀真琴 昭15 二、〇〇〇

18 トルストイ 芸術とはどういふものか河野興一 昭9 八〇〇

19 フエロ 哀詩 エヴァンジェリン 斎藤悦子 昭26 二、〇〇〇

20 ブルックハルト 伊太利文芸復興期の文化 村松恒一郎 昭11 一、五〇〇

21 ベーベル 婦人論 草間平作 昭7 一、〇〇〇

22 ベルグソン 時間と自由 服部紀(背痛) 昭15 八〇〇

23 ヘルムホルツ 力の恒存について 矢島祐利 昭24 八〇〇

24 ランケ 政治問答 他一篇 相原信作 昭16 一、〇〇〇

25 ランケ 強國論 相原信作 昭15 一、〇〇〇

26 リヤ 婚姻の諸形式 木下史郎 昭9 二、〇〇〇

27 ルクセンブルグ 資本蓄積論 長谷部文雄 昭9 一、五〇〇

28 ルクセンブルグ 経済学入門 佐野文夫 昭12 一、〇〇〇

29 ルクセンブルグ 資本蓄積再論 長谷部文雄 昭10 二、〇〇〇

30 ルナン イエス傳 津田 昭16 二、〇〇〇

31 レムケ 人間の精神―心理学概説― 立花祐雄 昭7 一、五〇〇

32 会沢安 新論・迪蘇篇 塚本勝義 昭44 二、〇〇〇

33 東洋民権百家傳 小室信介 昭32 二、〇〇〇

34 兆民選集 中江篤介著 嘉治隆一編 昭16 二、〇〇〇

35 訓読山陽詩抄 頼成一、伊藤吉三 昭19 二、〇〇〇

36 訓読山陽詩抄 黒板勝美 全3冊 昭18 二、〇〇〇

37 神皇正統記 山田孝雄校訂 昭11 一、五〇〇

38 平家物語 山田孝雄校訂 昭4 八〇〇

39 増鏡 和田英松校訂 昭14 八〇〇

40 町人囊・百姓囊・長崎夜話草 西川如見著 昭17 一、五〇〇

41 日本唱歌集 飯島忠夫・西川忠幸校訂(背痛) 昭16 一、〇〇〇

42 賽艇録 堀内敬三、井上武士編 昭33 一、〇〇〇

43 キルケゴールの日記 玉林憲義久山 康 昭27 五〇〇

44 マルティン・ルター アテネ文庫 北森嘉藏 昭26 五〇〇

45 西洋歴史辞典 尾鍋洋彦 昭28 五〇〇

46 数学辞典 吉田洋一 昭28 五〇〇

47 地学辞典 三野興吉 昭28 五〇〇

48 化学辞典 白井俊明 昭29 五〇〇

49 音楽辞典 諸井三郎 昭26 五〇〇

50 家庭科辞典 羽仁説子 昭28 五〇〇

51 生命とは何か 座談 出宮博・川喜田愛郎・岡小天・務理作 昭24 五〇〇

52 神を採ねて 仁科 鈴木 昭25 五〇〇

53 科学と宗教 座談 仁科 鈴木 昭23 五〇〇

54 現代の良心 柳田謙十郎 昭25 五〇〇

55 論理学入門 仁田六三郎 昭27 五〇〇

56 自然辯證法入門 原 光雄 昭24 五〇〇

57 辯證法入門 高山岩男 昭23 五〇〇

58 福澤諭吉 小泉信三 昭29 五〇〇

59 一対一 吉田洋一 昭27 五〇〇

60 法律の階級性 戒能通孝 昭25 五〇〇

61 銀行 紅林茂夫 昭26 五〇〇

62 ソヴェートの市民生活 丸山政男 昭22 六〇〇

63 友人近衛 有馬頼寧 昭23 六〇〇

64 イギリス憲政史 松本平治 昭30 八〇〇

65 ケーベル先生 和辻哲郎 昭23 八〇〇

66 ヴェルサイユ体制 小林榮三郎 昭31 八〇〇

67 獨逸デモクラシーの悲劇 岡 義武 昭24 八〇〇

68 ネール首相の秘密 岡倉古志郎 昭26 八〇〇

69 ノーベル賞 白井俊明 昭25 八〇〇

70 ヒマラヤ登高史 藤木九三 昭25 八〇〇

71 ロシアの科学者 八杉龍一 昭24 八〇〇

72 河上肇博士のこと 壽岳文章 昭23 八〇〇

73 一寸法師 石田英一郎 昭23 八〇〇

74 太平洋海戦史論 小柳富次 昭25 八〇〇

75 東西文化の交流 伊瀬仙太郎 昭30 八〇〇

76 第四次元の藝術 谷川徹三 昭27 八〇〇

77 卒翁夜話 尾崎行雄 昭23 一、〇〇〇

78 創元社文庫 東洋の理想 岡倉天心 昭26 六〇〇

79 新文章読本 立春の卵 中谷宇吉郎 昭26 五〇〇

80 毎日の言葉 柳田國男 昭26 五〇〇

81 市民文庫 平安朝の生活と文學 関みさを 昭27 八〇〇

82 源氏物語女性考 全2冊 池田龜鑑 昭31 一、五〇〇

83 日本文學の發生 序説 折口信夫 昭26 八〇〇

84 ラジオ・ドラマ傑作選 菊田一夫編 昭27 五〇〇

85 怪談 幸田露伴 昭27 五〇〇

86 釣隨筆 佐藤垢石 昭26 八〇〇

87 改造文庫 レヴィンスキー 財産起源論 貴島克己 昭4 八〇〇

88 モンテスキュー ベルシア人の手紙 斎田禮門 昭13 一、〇〇〇

89 國意考 賀茂真淵(少汚れ) 昭19 五〇〇

90 西園寺公望 田中實太郎 昭17 五〇〇

91 伊澤蘭軒 森陽外 全3冊 昭15 一、五〇〇

92 陸奥宗光傳 渡邊幾治郎 昭14 一、〇〇〇

93 短歌集 石川啄木 上岐善應・金田一京助監修 昭10 六〇〇

94 我等の一團と彼・雲は天才である 石川啄木 昭8 五〇〇

95 角川文庫 アラン 思想と年齢 原 亨吉 昭30 一、〇〇〇

96 ウェイグール アレキサンダー大王 古川達雄 昭47 一、〇〇〇

現代寺院副業の手引

— 寺院で出来る事業大百科 —

秋山昌海 著

マンション墓地、ベトナム供養、託児所、ヒールハウス、喫茶店経営、参道利用……副業の成功例を全国規模で徹底取材した、秘訣・ヒント盛沢山の手引き。お寺のいろいろな場合を考慮した編集により、最も効率的な経営法が発見できます。

B5判・定価二八八〇〇円



写経を奉納する「白象」左側に駐車場がある

実用的な仏教書のコンパクト版

法名戒名大字典

釈 慶嚴編
定価六八〇〇円

難字・異体字典

有賀要延編
定価七八〇〇円

諷誦・歎徳・表白・引導大宝典

釈 慶嚴編
定価二二〇〇〇円

揭示文書伝道大事典

国書刊行会編
定価九八〇〇円

仏教手紙・文例大事典

相馬泰全編
定価八八〇〇円

仏教イラスト大図典

国書刊行会編／寺報や寺誌、行事用パンフレットに適した古今の仏教画・イラスト・カットを満載。自由に複製使用可。A4変型判・定価一八〇〇〇円



注文制です。お近くの書店にお申し込みください。国書刊行会 〒170 東京都豊島区巣鴨3-5-18 ☎03(917)8287(代表)

日本のガラス

著者 土屋良雄 写真 藤森武

江戸から現代ガラス作家に至るまでの日本のガラス三百年の歩みを追って、美麗な名品二〇〇点を追うたある美しいカラー印刷で再現。

A4判変型／総二二〇頁 カラー図版一七六
本文二〇頁 英文概説・目録付

藍の華筒描

序 水六輔

藍染に朱・黒・黄などで彩りを加えた祝風呂敷、蒲団地、夜着など、松竹梅・吉祥・茶道具・扇・家紋などの文様で大らかに表わされた筒描集。

A4判変型／総一六八頁 カラー一五二頁
収録点数一九〇点 英文概説・目録付

写真集 京・四季のうつろい

岡田克敏作品集
定価三、五〇〇円

序 水上勉 賛 志村ふくみ

花・樹・竹の林、そして空と水。刻々の季節のうつろいをみせる京の風物。洛中洛外を歩き続け、自然の美の瞬間を心で写した写真集。

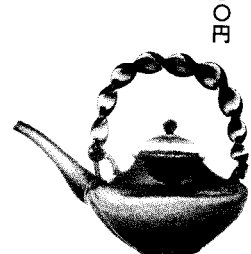
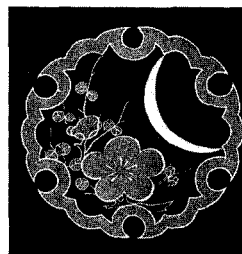
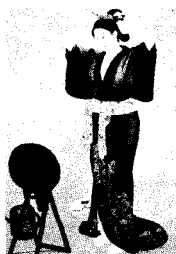
A4判変型／総一六〇頁 カラー一四四頁
収録点数一二二点 詳細撮影データ付

卒寿記念 横尾芳月美人画集

序 細野正信

福岡に生れた芳月は四条派を学んだ後、難方、深水に師事し、美人画に独自の境地を開く。ここに大正末から現在に至る芳月美人画の初集大成をおくる。

29×30cm／布製表紙装製本 布製函入
図版二一五頁 総二五〇頁



お申し込み
お問い合わせ

〒605 京都市東山区古門前通大和路東入元町368 京都アートセンター3F
☎075-525-2445 FAX075-541-0209 振替 京都8-37303

日本莊園制論

今井林太郎著

莊園の発生からその崩壊に至るまでを跡づける。莊園に関する概説書として先駆的なものであるとともに、特に莊園の内部構造や荘民の階層分析に先鞭をつけた書として注目にあたいする。昭和14年刊の復刻

B 6判・三六八頁 定価三、三〇〇円

元龜二年運歩色葉集

安田章

室町時代の通行語をイロハ順に配列した通俗辞書。掲出語の豊富さでは傑出。また人名等は勿論、基や双六の用語までを集成、事典的な性格をも有する。原本成立後間もない書写で最も信頼すべき貴重な一

A 5判・本文二色刷二八四頁・解題六六頁 定価一〇、〇〇〇円

大三輪町史

大三輪町史編集委員会編

大和平野東南部、三輪山を中心とした地は、遺跡・旧趾は枚挙に暇なく、大神神社はじめ実に長い歴史と文化の蓄積ある土地であり、日本の歴史を考える上でも決して看過しえない。興味つきない三輪の通史

A 5判・一〇九頁・写真一八頁 定価一五、〇〇〇円

大和志・大和志料

全三冊

『大和志』は享保二二(一七三〇)年刊、並河水の校による日本輿地通志鑑内部の内十六巻である。『大和志料』は大正三十四年刊、奈良県編による。両書共に大和に関する研究には欠かすことのできない基礎資料

解説／池田末則・藤田佳久・黒沢幸三 定価二八、〇〇〇円

『近刊予定』大和名所記

和州旧跡幽考

林宗甫著 延宝九年刊 A 5判・九四四頁 定価二二、〇〇〇円

神道史研究

創刊号 第24巻6号

神道に関しあらゆる分野からの論考や各神社研究、文献史料紹介まで多様な内容の神道研究の中心的存在。日本人の精神史研究にも不可欠

神道史学会編 全一四一冊・合本一八冊 定価二二、〇〇〇円

臨川書店刊

本 606 京都市左京区今出川通川端東入50M 075(721)7111 FAX 075(781)6168
社 101 東京都千代田区神田駿河台2-11-16 03(293)5021 FAX 03(293)5023
京 530 大阪府北区芝田11-6-2阪急古書のまち 06(374)1300

好評発売中

絶 賛

最 新

刊

都道府県教育史シリーズ第十五回配本

岡山県教育史

ひろたまさき 倉地克直 編著

古くは「吉備王国」として君臨し、肥沃な岡山平野と瀬戸内航路・山陽道によって栄え、充実した教育文化を生み出した。浄土宗の法然、臨済宗の栄西を輩出し、閑谷学校創設の名君池田光政による文教政策、多彩な交流による地方文化の活躍などを通して、人間成長史にそった新しい「教育史」をめざした好著。

●B 6判・三二〇頁／定価一、八〇〇円

〔既刊〕

京都府／徳島県／愛媛県／愛知県／大分県／福岡県／長崎県／秋田県／福井県／青森県／島根県／富山県／栃木県／岩手県
〔続刊〕大阪府／山梨県／神奈川県／高知県
●B 6判・平均三三〇頁／平均定価一、八〇〇円

水車の技術史

出水 力著

いま、水車は技術発展と生活文化の接点を求めて水車の歩みを明かす。水車の技術的な諸側面を平易に解説し、全国の代表的な水車を紹介、あわせて水車(風車)と産業技術のあり方を通して水車の未来像をさぐる好著。

●四六判・四〇〇頁／定価二、六〇〇円

古文化財の科学

山崎一雄著

古文化財の科学的研究の第一人者による四十五年余にわたる成果をまとめる。正倉院宝物の調査・装飾古墳・高松塚・法隆寺金堂・栄山寺八角堂・醍醐寺五重塔・源氏物語絵巻などの顔料分析、正倉院の陶器・ガラスや緑釉陶などの化学分析、および銅鏡・銅鐸・青銅器などの成分分析に関する諸報告を収録。

●A 5判・三八〇頁／定価五、八〇〇円

高橋箒庵日記

全九巻

大濱徹也・熊倉功夫・簡井紘一校訂

萬象録

既刊第一〜三巻

明快・的確な筆さばき、鋭敏な同時代感覚にあふれた一大メモワール! 書画骨董から音曲・能・歌舞伎・新劇等々、茶会記や諸大名の充立・歌入札記録、裏話や政財界人の談話も満載。今ここにのみみえる稀代の数寄者のこころ

●A 5判／定価七、五〇〇円・八、五〇〇円

ザ・ヤトイ

お雇い外国人の総合的研究

お雇い外国人が明治維新前後の日本の近代化に果たした役割は計り知れないものがあり、本書は、今日の視座からお雇い外国人の役割を見直し、現代に及ぼした影響などを究明しあわせて国際学術文化の交流発展のために一九八五年三月、福井大学において開かれた「ザ・ヤトイ」国際シンポジウム「福井大会」の成果をまとめたもので、講演三篇のほか十八篇を収録した。

●B 5判・三三〇頁／定価六、三〇〇円

思文閣出版

京都本社
東京支社

〒606 京都市左京区田中関町2-7
〒104 東京都中央区銀座6-11-10

(075) 751-1781
(03) 572-9051

〔呈内容見本〕